

修猷館同窓会誌

2024

菁莪

令和6年 January/Seiga



表紙解説

令和5年3月18日、19日に第77回修猷大文化祭が開催されました。天候にも恵まれ2日間で総計6,500名もの方々が、3年ぶりに入場制限を受けない形で参加され、コロナ前と比較しても、近年では最も来校者が多い大文化祭となりました。

テーマは「維新」

目まぐるしく変わる時代の中、大文化祭はどう変化するのか。答えは前進のみである。熱と全力を以て修猷に新たな歴史を刻もう。(文化祭パンフレットより)

1年生、2年生各クラスのExhibition。部活動・有志によるPresentation。中庭・講堂でのPerformance。87の団体が2日間にわたり様々な形で発信しました。生徒たちにとって、日ごろの研究や練習の成果を大いに発揮し成功裏に終えたことは誇らしい経験となったことでしょう。

文責 森下

修猷館同窓会誌

菁 莪



リンク先 URL

(<https://shuyukan-dosokai.com/seiga/>)

| | | |
|-------|------|---|
| 御挨拶 | 津田純嗣 | 1 |
| 新館長挨拶 | 中神智文 | 2 |
| 随想 | | |

感動は人を動かす……………森田澄夫：3
 パスカルの海―物質になる以前の全てが溶け合った状態とは
 如何なるものか……………坂口寛敏：7

江川文庫収蔵館について……………東原克行：12
 街のコミュニニティを創る……………駒田由香：16

自分らしく……………山口大輔：19
 キャリアセミナー……………

六星会キャリアセミナー……………若生暁子：25
 資料館案内……………28
 部活OB会……………

華道という猷を繋ぐ……………浅野由布菜：31
 花盛り同窓会……………

同窓会総会報告……………入江耕平：33
 東京修猷会総会報告……………大場さおり：35
 『彼の群小』を熱唱―近畿修猷会総会報告―……………内藤純也：37

支部だより……………

東京修猷会……………高木信明：39
 近畿修猷会……………内藤純也：40
 中京修猷会……………川野靖史：40
 沖繩修猷会……………山崎秀雄：41
 中国四国修猷会……………河野浩：41
 東北修猷会……………工藤砂織：42

長崎修猷会……………宮下武彦

宮崎修猷会……………立石修

佐賀修猷会……………光田靖

大分修猷会……………駒井英基

鹿児島修猷会……………三好宣彰

周年行事……………

東京修猷三五会傘寿記念同窓会開催……………白木大五郎：47
 修猷さんばち会「卒業六十周年記念同窓会」……………宮本正邦：48

時がつながらる同窓会 昭和46年卒「よかろう会」52周年同窓会……………副島広巳：50
 昭和四十七年卒業生 古稀の会……………荒木啓一郎：52
 剛質会（S57卒）還暦記念大同窓会……………西岡修：54

通信制部会より……………

「静」と「動」……………田中武道：56
 学年一口連絡アンテナ……………58
 学校報告……………64

同窓会の歩み……………66
 役員会・学年幹事会報告……………67
 令和4年度 同窓会収支決算書……………68
 令和5年度 同窓会収支決算書……………71

令和4年度 同窓会費入金状況……………72
 修猷館同窓会会則……………73
 修猷館同窓会 個人情報保護方針……………75

同窓会事務局だより……………76
 令和4年度 一般財団法人修猷協会活動報告……………77
 修猷館同窓会役員名簿・各支部会長名簿……………78

御挨拶



同窓会会長

津田 純嗣

(昭和44年卒)

同窓生の皆さん、今日は。昨年令和五年はコロナがようやく落ち着き、修猷の学校生活も我々の生活も通常に戻りました。コロナ禍の卒業式での答辞には胸を打たれました。記憶頼りですが、同窓生の皆さんにもお伝えしたいと思います。

「私たちはコロナ禍の真つただ中に入学しました。学校生活では行事の計画を立て準備を進めて来ても最後には中止となる挫折を繰り返し経験することとなりました。そして、最後の行事となった三年生での運動会は声出しをしないなど制限付きとはなりましたが、工夫を重ねて開催にこぎつけ、自分たちにとっては感動の運動会となりました。多くの挫折を経験し、そして最後にゴールに行き着く経験が出来た私たちの世代は今にして思えば最高に恵まれた高校生活であったと締めくくれます。顧みれば、行事中止の時にも最後の運動会でも、先生方は我々に計画から最後の決断まで判断を委ねてくださいました。コロナ禍の時期を自主独立を伝統とする修猷館で過ごせた私たちは最高の幸せ者です!!」

修猷の伝統を繋いで素晴らしい後輩たちが菓立つのを見られるのは嬉しく、又、誇らしくさえ思えました。これからも、修猷が世界にはばたく人材を輩出する場として発展することを考えたい。

三十年近くも前に中教審から多彩な人材を教育するためには中高一貫での『新たな時代の中等教育が必要である』との答申が出されています。

『これからの社会は、変化の激しい、先行き不透明な、厳しい時代であるが、時代を越えても変わらぬ価値のあるもの(不易)を大切にしつつ、時代の変化に的確かつ敏速に対応できる資質・能力を6年間の一貫した教育課程や学習環境の中でゆとりを持って成熟させ、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばし、我が国が活力ある社会として発展していくための次代人の育成を目指す。』

これに呼応して関東圏の「公立高校」では早くから中高一貫化に取り組み、大きな成果を生んでいます。学力偏重に別れを告げた全人教育で、自ら探求し考える生徒の育成に成果を上げ、結果として進学成績も上がっています。そして、中高一貫化の流れは勢いを増しています。

かつて五年制だった中学修猷館は義務教育を九年間に延ばす政策の下、6・3・3制での三年制の新制高校に改変されました。その時代の要請は既に終わりを告げています。又、三年制の高校では大学に受かるための効率主義になりがちです。修猷館でも文系・理系・医系の分離が二年時から行われている残念な状況にあります。社会には多様で多才な人物が必要であり、幅広い知識と教養を生徒が身に付けるための教育を行うべきです。六年間のカリキュラムの中で、人格を磨き、自ら進路を定め、前に進む生徒を育む場所を後輩たちに与えたい。修猷館を始めとする県立高校の中高一貫化は待ったなしの状況と思えます。

新館長挨拶



中 神 智 文

令和五年四月に福岡県立修猷館高等学校第三四代館長に赴任いたしました中神と申します。どうぞよろしくお願いいたします。令和六年度に創立二四〇周年を迎える歴史と伝統、そして同窓生の御活躍ぶりでも福岡県下で比類ない修猷館高校で勤務いたしましたことは、光栄でもあり、責任の重さを感じる日々です。これまで修猷館高校とはほぼ縁もゆかりもなく勤めてまいりましたので、校内外の様々な事について、驚きをもつて過ごしています。

さて、赴任以来、大同窓会をはじめ各地の同窓会支部へ足を運ぶ機会を得ました。どこでも温かく迎え入れていただき大変感謝しております。そして常に感じさせられることは、同窓生のつながりの強さです。同窓会というのは、単に同じ学校を卒業した人の集まりですが、修猷の同窓生というのは、年上を先輩として敬い、先輩は後輩を気に掛け面倒を見る、その気持ちの強さを皆様に感じます。

令和五年度の大運動会は、久しぶりに、観客数や声出しの制限の無い形で行い、生徒諸君の気合いの入った雄叫びがグラウンドに響いた一日でした。御支援いただいたグラウンドの人工芝も

大変効果的で、第一は生徒諸君のけがの軽減に大変効果を発揮しました。騎馬戦で騎手が転落しても、そこにはクッションが効いた人工芝があり、大きなけがををする生徒も出ません。さらに、土のグラウンドの時代には、グラウンドから飛散する土埃に、近隣住民からの苦情も結構なものだったそうですが、それも一切なくなつたことも見逃せません。昨年は多くの同窓生の方々も御来賓として御観覧いただきましたが、その際にも御自身の運動会のことをお話しになる方が結構多く、皆さん、濃密で全力を傾けた運動会を経験されたのだなあと、印象深く聞いておりました。

また、本年度は新型コロナウイルスも五月に五類に移行し、修猷館でも以前の日常が戻ってきました。文化部では多くの部が県大会に進み、生物、華道、書道、文体総合（囲碁）が全国大会に出場しました。運動部でも多くの部が県大会に駒を進め、水泳、山岳、陸上、ヨットがインターハイに出場、特に山岳（男子）はインターハイ全国二位の成績を残しました。文武両道を地で行く修猷生は、今後とも自分を磨き、仲間と切磋琢磨し、より高みを目指して進んでいくことでしょう。

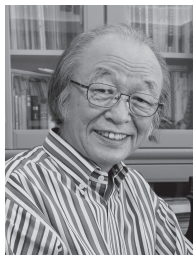
キャリアセミナーも、当番期の皆様のお熱のある御講義をいただき、生徒諸君も自己の将来を考える大変良い機会になりました。アメリカ研修も昨年で二六回目となりました。西海岸に一二名の生徒を送り出し、現地の同窓生の皆様の手厚いお世話を受け、成果を上げて帰国しております、ありがとうございます。

修猷同窓生の皆様の様々な御支援のもと、生徒は他校では経験できない様々な恩恵を受けて、充実した学校生活を送っています。今後とも御協力・御支援のほどよろしくお願いいたします。

感動は人を動かす

——私の音楽人生を導いてくれた二つの音楽会——

《生涯の仕事「邦楽器とともに」への道》



森 田 澄 夫
(昭和41年卒)

時として人は様々なことに心を動かされる。

特に青少年時代に心の底から感動した経験は、生涯に亘りその人の心の羅針盤となってもおかしくない事ではない。

今振り返ってみると、ピアノやソルフェージュなどの、基本的な音楽の訓練も皆無だった身で、よく音楽家の道を選んだものだと心底思うとともに、これまで音楽家として続けられたのも節目毎に良き師、良き仲間たちに恵まれた幸運の賜物と感謝せずにはられません。

そうした私の歩みをふり返りながら、今日、私を音楽に目覚めさせ、私が自身のライフワークとして取り組む、一邦楽器を

共演楽器として声楽家が歌う、新しい日本歌曲の創造と普及の会「邦楽器とともに」の運動に私を導いてくれた、二つの忘れられない音楽会についてお伝えしたいと思います。

【第一の音楽会】

さて、憧れと希望をもって修猷館に入学したのは、ほぼ六十年も前のことになります。中学時代に目覚めたコーラスをより深めるべく合唱部に入部。ところがそこは伝統的に学生指揮者を中心とした学生たちによる自主運営がモットー。高校に入ったらコーラスも当然グレードアップと思いついていた私は、最初から現実の壁にぶち当たります。それでも部員たちは気のいい音楽好きばかり。何か物足りなさを感じながらも一緒にコーラスを楽しんでいた二年生の秋。安いチケットがクラブに回ってきて、仲間と一緒に聴いたドン・コサック合唱団の演奏の余りの凄さ！ 胸の奥深くまで染み渡る豊かな低音から力強い高音迄、とても人間の声とは思えないような多彩な響きとハーモニーにショックを受け、心の底から感動。これが本物の声なのか。初めて触れた本物の音楽に、これが音楽ならば人生をかけて取り組んでも悔いはないと心底思った私を、音楽の道に導いてくれた第一の音楽会でした。

とは言え、好きで歌っていただけの私に音楽なんて出来る筈もありません。一旦は諦め普通の大学進学を目指しますが、本心に諦めても良いのかという思いが沸々と起り、両親に自分の決意を述べ、宮城道雄直門の作曲家の母親と共に、音楽の専門家に声と歌のテストをして頂きました。無理ならば即諦める

という条件で。最終的に、当時中央高校の音楽教諭だった桐山愛海先生の下で、正式に声楽を習うことになったのが、忘れもしない三年の七月十一日。私の音楽人生始まりの日です。

【藝大入学】

あまりにも遅い音楽家へのスタートだったにもかかわらず、一浪後、思いもしなかった東京藝術大学声楽科に運よく入学。オペラ団体「二期会」創設者のお一人、柴田陸陸先生の下で音楽家としての第一歩を踏み出しました。とは言え、基礎訓練ほか何処もかしこも足りないところだらけ。大学四年間で追いつけるはずもないのは先刻承知、出来る限り長い学生の身分を求めて大学院を受験、これも何とかクリア。

藝大七年間、学校での勉学の傍ら、恩師、吉岡巖先生を中心に仲間達と演奏団体「横浜カントーレ」を立ち上げ、コンサートの開催、モーツァルトや日本の創作オペラなどのステージ経験を積み始めました。また、母が作曲家、父は尺八をこよなく愛する琴古流の尺八奏者という邦楽一家だったこともあり、宮城道雄の歌曲演奏や合唱指導を頼まれたりする機会も増えていきました。そうした関係で、現在も一緒に活動している幼馴染の作曲家、深海さとみさんをはじめ、箏奏者を中心に邦楽専攻の友人が多く出来ます。また、当時、藝大教授だった宮城宗家、宮城喜代子先生にも可愛がっていたく幸運な藝大生生活の終盤、今日の運動に繋がる第二の音楽会に出会うことになりました。

【第二の音楽会】

大学院三年の初夏、藝大邦楽科の卒業生主催の「森の会」定期演奏会で、野坂恵子（後の操壽）による「箏譚詩集」（三木稔作曲）が演奏されました。伝統的な十三絃の箏で演じられる音楽が、それまで聴いたことの無い音楽の流れ。私が子供時代から聴いてきた邦楽の流れとは違い、私が目指す洋楽と同じではないか。箏でこの流れの音楽を作れるなんて!!

邦楽や邦楽器に抱いていた私の固定概念を打ち砕くに十分な演奏を目にし、もしかしたら邦楽器で洋楽の流れとハーモニーを持つ音楽を創れるかも知れない。と、初めて身体で受け止めることが出来た演奏でした。その後、留学前の短い間、私は野坂先生の追っかけの一人でした。

【ロータリー財団奨学生試験】

大学院オペラ科生活も終盤に差し掛かり、さて次の目標は？これはもう憧れのイタリア留学しかないと思っていた矢先、丁度、国際ロータリークラブの奨学生試験を受けるチャンスが訪れます。

この試験内容は書類、面接試験に加え、苦手な語学試験もあるとのこと。大学院卒業後、共にイタリア留学を目指していた楽理科の一年後輩で、西洋音楽を専攻していた結婚したての妻、陽子と二人して、仕事が終わる夜遅く、イタリア人に週五日イタリア語の文法と会話を習います。久し振りの超話込み受験勉強の日々、台所からトイレまで家中の壁は、イタリア語の単語と例文の、さながら黒板状態と化します。元神父のマエストロから会話試験のコツとして「質問の答えは短く。なるべく相手に多く質問させ、会話が途切れないように」と虎の巻も伝授。

これまた運よく合格。そして一九七六年七月に渡伊。トスカーナの古都、シエーナで二カ月間の語学研修。その後ミラノで通算五年間の充実した、何ものにも代えがたい留学生活を送りました。

【イタリア留學生活】

歴史ある街並みと美しい自然。どこを切り取っても昔の営みが顔を出しそうな石造りの佇まいからは、太古の昔からの歴史と文化の香りが漂い、人々を百年前、中世、あるいは古代の世界に導いてくれる美術と歴史の町。最初の生活を送ったシエーナは正にそんな町でした。その後ミラノでの留學生活が始まり、ベルデイ音楽院や個人レッスンに通う傍ら、通算百二十回を数えるスカラ座通いは、イタリア人が本当に良しとする声と音楽の魅力を私に教えてくれました。年々その魅力にはまりながら裏腹に、「自分は日本人だ」というもう一人の自分の存在、血の問題に気付かされます。結論として、将来は、日本、イタリアの両方の音楽を歌ってゆこう。双方の懸け橋になろう」と決めて帰国第一回目から邦楽器も取り入れた日本の歌とイタリアの歌を一夜のプログラムに組み、毎回リサイタルを行なってきました。

【帰国・交声曲「日蓮」】

さて、五年間のイタリア留学を終え帰国して最初に演奏したのが、森田定子「芸道五十周年記念演奏会」でした。総勢百五十名の交声曲「日蓮」(宮城道雄作曲)と九州交響楽団をバックにした「千鳥の曲」(菅原明朗編曲)の独唱。独奏は何れも母定子。

交声曲「日蓮」は邦楽オーケストラ、箏独奏、男声独唱、混声合唱を、指揮者がタクトを振り演奏する宮城道雄最大の曲です。箱崎松原の中に佇む日蓮銅像の建立五十年を記念し、昭和二十九年に作曲された(作詩は当時の浮羽郡本仏寺住職、佐野前光上人)「日蓮」は母、定子にとり特別な作品でした。当時のスーパースター、宮城道雄先生への作曲依頼の取次から、恩師からの依頼による五線譜スコアを含む全ての楽譜制作、初演時の演奏会成立まで母は全てに関わりました。恩師から断片的に送られてくる点字譜を、記譜法が全く異なる楽器群の譜面に起こし、全てを纏めた邦楽譜スコア、および指揮者用五線譜スコア、合唱譜作成。五線譜スコア作成のために、一から楽典を学び直すという、一介の箏弾きからは殆ど考えられないような苦勞の末、一人で成し遂げた定子の宝物でした。

その後、「日蓮」は全国で度々演奏され、私も独唱、合唱指導、指揮を含め三十余回関わりました。当時の状況で楽譜が残せたこと自体、驚異的なことでしたが、実際、楽譜のミスも多く上演の度に支障をきたしていました。後に宮城宗家、宮城喜代



森田定子芸道50周年記念演奏会「日蓮」澄夫独唱

子・数江先生の依頼で五年余りの歳月をかけて全楽譜の校訂を行ないました。母も気掛かりだったに違いない楽譜の校訂を息子の私がやれたことは母への何よりの供養となりました。

【演奏スタート】

一方、日本オペラ協会、東京室内歌劇場、長門歌劇団ほかオペラ出演の機会にも恵まれました。また、帰国以来、財団奨学



オペラ「阿麻和利」

生の会、ロータリーフェローズ東京の活動を通じて多くのロタリアン、学友と交友を結びつつ、福岡城西RCを含む、RC関連のコンサート企画・演奏に携わります。中でも、修猷の先輩でもある、田中栄次郎氏（三十年卒）には大変お世話になりました。

その傍ら懸案の邦楽器を使った声楽曲採しに、現代邦楽の演奏会や作曲家の自宅訪問、NHK放送資料室を覗いたりしましたが、中々成果が上がりません。ならば自分たちで作るしかない、と覚悟を決め、二〇〇五年、現在に続く「邦楽器とともに」を（社）日本歌曲振興会の一分野として立ち上げ、翌二〇〇六年、第一回「邦楽器とともに」を上野公園内の「旧奏楽堂」で行いました。この企画は当初、外部の専門家からも期待と注目を集めました。邦楽器を扱う絶対的な作曲家不足、演奏者のレベルもバラツキがあるなど問題山積。理念は素晴らしいが演奏会としてはイマイチ、と評価されてしまします。その反

省から、本当に実力とやる気のある集団をつくらう、と決意。二〇一六年、わずか十三人の有志とともに独立。新たに「邦楽器とともに」を行う為の会「日本歌曲協会」を設立、再スタートしました。

【日本歌曲協会・邦楽器とともに】

それまでに培った人脈と自由以外は、全て失いましたが、これがとても良い結果を生みました。組織も一から作り直し、顧問に、日本伝統文化振興財団理事長、藤本草、音楽雑誌、邦楽ジャーナル編集長、田中隆文両氏に加え、元三井造船社長の加藤泰彦氏（修猷の同期）を迎えました。（一昨年からは加藤君に代わり、昨年春まで三井住友海上文化財団理事長を務められた井口武雄氏が就任）。それまでの詩人、作曲家、声楽家の三者に加え、日本の現代邦楽トップ奏者の深海さとみ、福永千恵子、田辺頌山氏をはじめ邦楽奏者を会員に迎え、四者による組織としました。以後、実力とやる気がある人のみを新会員として迎えました。現在、顧問三名、特別会員三名、正会員三十八名、賛助会員三十五名の陣容、事務局も備え将来が見えてきました。結果的に、演奏のレベルが飛躍的に向上。邦楽器と声楽という異文化を背景に持つ水と油的な違和感が減少、両者が融合しながら、新しい音楽世界を作り出しているのは、嬉しい限りです。

この企画の当初から毎年一回の新作中心の発表会を行なうて来ましたが、二〇一八年から新たに再演や将来を担う若ものたちのステージも加えた「春のステージ」シリーズを開始。お陰様で秋の東京文化会館での新作の会「邦楽器とともに」、春の

渋谷、さくらホールでの「春のステージ」と年二回の演奏会も定着してきました。

「邦楽器とともに」を始めて今年で十九年目、これ迄に発表された初演曲は改訂初演も含めると、百六十曲を数えます。外国人の作曲家も会員に加わり、各地で再演の声も聞かれるようになりました。また、三年前からコロナ禍でのYouTube配信も始めました。

邦楽ジャーナル誌上で田中隆文編集長がこの活動を、百年前宮城道雄を中心に日本の音楽界を席巻した【新日本音楽運動】に例えて述べられたように、この新しい日本歌曲が、国内はもとより東から西へ、日本から世界に向けて発信されることを心から願っています。

【終わりに・原点を見つめながら】

帰国後四十年間、東京と福岡（室見、和光音楽アカデミー）で声楽の教室を開いています。これまで藝大はじめ音大に進学された方も居られますが、大半は合唱や歌を楽しむアマチュアの方です。近頃は修猷繋がりも多くなりました。私の同期の藤洋君、合唱部時代から今に続く後輩の等健次君（四十五年卒）や同期の杉本和俊君、矢追咲枝（四十三年卒）武末佳子（五十六年卒）の皆さんや演歌でも何でもごぞれの女医さんやお坊さん、身体が不自由な方、視覚障害者や様々な方が参集。年一回のVIVA VOCEヴォーカル・コンサートでは、アマチュアならではの自由さで素晴らしい歌を披露、謳歌されています。声楽を通して彼らは私に修猷時代の歌の原点、人生に音楽は無くてはならぬもの、生き甲斐と楽しさを何時も教えてくれています。

パ斯卡ルの海—物質になる以前の全てが

溶け合った状態とは如何なるものか



坂口寛敏

（昭和43年卒）

人類が最初に絵を描こうとした衝動とは如何なるものであつたろうか。旧石器時代のクロマニヨン人が石器・骨器などの精密な道具をつくり、優れた洞窟壁画や彫刻を残しました。また、死者を埋葬し、呪術を行なったとされ、アルタミラなどの洞窟壁画を見ると、人の手形の他、野牛、馬、鹿などの食料になる動物が描かれ、成長や生命力に繋がる螺旋形も描かれています。それらの絵柄から読み取れるのは、厳しい自然の中で生きていくこと、世代を繋いでいくこと、大切なものを失うことに対する不安や畏敬の念の様なものを感じ絵を描いていったのだろうと考えています。このような自然環境の中で不安と一時的な安心安定の間を心は揺れ動いたのではないでしょうか。生死が表裏一体のものであり、その揺れ動く心は、亡くなった者達に繋がっていたという強い願いが形象表現を生んだのだらうと想像します。

私の創作行為は具象抽象の領域を超え、何を描くかを脱し、

如何に描くことができるかを追求しています。私は、宇宙が無から始まり無限に拡張している様に、物質化する前の何かが生まれるための全てが溶け込んだスープ状の大きな絵画空間を目指しています。様式や時代性を如何にして超え、原初の美術表現に繋がる為にも。

修猷子さんから坂口寛敏のアートに対する質問①〜⑩

① 芸術家を目指すきっかけとなった出来事や作家／作品はどういったものでしょうか？

□ 芸術家になろうと思ったり、絵描きになろうと決心したりしたことはありません。幼少の頃より絵を描くのが好きで、小学1年の時から高校3年まで、少しの休みはあったけれど東京美術学校卒の手島貢画伯の教室に通っていました。修猷館に入学し直ぐに美術部に入りました。大先輩に和田三造、児島善三郎、中村研一、琢二兄弟などの高名な画家も輩出しています、その大先輩達の作品と一緒に当時の福岡県文化会館の全館で修猷美術展を行えたことは高校生にとって非常に大きな経験となりました。先輩方の事務所や銀行支店に貸絵と称して部員の額入絵画を定期的に飾り付けに行き、部活資金を集めることができました。勉強そっちのけで描いた作品群を部員が持ち寄っての展覧会の事や、学友達の作品と色使いなどは今でも忘れることができません。それでも高校の頃はアマゾンに探検に行きたいとか気象観測で富士山頂の測候所に行きたいなどと考えていました。

東京藝術大学油画科に入学し、野見山晁治教室の大学院を修了しました。先生とは先生が昨年102歳で亡くなられるまで、山岳部の私と山やスキーに行き、また帰郷しては糸島の先生のアトリエや海で一緒に遊ばせて頂き、意識しないうちに先生の画家としての確固とした自立する姿を学ばせていただきました。西ドイツのミュンヘン美術アカデミーに留学、8年後帰国し母校の教授を務め、いまだに絵を描き、美術の創作を行っています。

② 作品には、深い奥行きがあるものの、その奥行きは、いわゆる古典的な遠近法によるものではありません。独自の空間は、どのような目的や課題のもと生み出されているのでしょうか？

□ 人は二次元の絵画表現の中に何を見出すのだろうか？ 西洋の絵画と東洋の絵画や中東の文様など、地域や時代によっても描かれる事柄や空間性は異なります。絵画空間とは如何なるものかを考える時、私はよく原始時代や古代の洞窟壁画が如何にして生まれたかに思いを馳せます。

洞窟の凸凹した壁面が炎の揺らぎに何かの形態を見出し、それを定着しようとしたのではないか、いま現在、眼前に存在しないものをどうして描こうとしたのか、また如何にして絵を描いたのだろうか？ ヒトと動物との違いは、火を使い道具を使うからだと言われているが、私はそんな簡単な違いではなからうと考えています。ヒトは、二次元の中に三次元や四次元を見出す能力を持ち得たし、或いは現実世界から一次元取り去ったバーチャルな二次元を創造できたからでしょう。そのために眼前に無いモノや眼球の裏の残像や揺らぐ映像として認識できる

様になったからに違いないと考えています。

③ コロナ禍や円安、気候変動に戦争・紛争——混乱を極める日本／世界の中で、坂口さんがとりわけ注目されている問題を伺いたいです。また、そうした問題は「自身の制作とどのように関係しているのでしょうか？」

□ 問題は水の惑星と言われる地球が随分小さくなってしまったという事でしょう。グローバリズムによる経済的独占と覇権主義の側面に戦争や疫病、異常気象などが絡み合って現れているようです。私が危惧していることは、この惑星の特異性と素晴らしい再生能力に敬意を示し、循環する恵みを享受しながら捧げ物による返礼を行う営みの流れが崩れていつている事です。捧げ物＝芸術・哲学、芸術・哲学＝全ての人類の営みを統合する概念

④ 坂口さんの活動を振り返ると、人間以外の生命体もしくはその痕跡を作品の中に持ち込み制作を行なわれてもいます。こうした制作態度はどのような問題意識から培われたものなのでしょうか？

□ 海と陸の境界に沿って線を引いていく行為は、海から陸上へ上がってきた生命体の記憶の追体験でもあります。繰り返して寄せる波に痕跡の線は消されていく。描かれたものより消された形の方が身体的には強く残ると感じます。視覚が、ある目的のために視野を狭め、研ぎ澄まされていくこと、それはよい面と悪い面があるように思います。絵画の一つの役目は、パスカルが認識できないものを数値化しようとしたころみた様に、今ま

で人が目にしてない、認識できていなかったあり様を創出することにもあると思っています。

⑤ 坂口さんは1980年代より、作品タイトルに「暖かい」や「Sound」という語をしばしば取り込まれています。これらの触覚的かつ味覚的な語はどういった企図のもと採用されたのでしょうか？

□ 何かが生まれたり発生したりするための最上の状態とは如何なるものかを視覚化することを考えていました。「暖かい」や「Sound」は密度や粘度とも関係しています。具体的にはカボチャスープの様な状態から時間や空間が発生したのではと仮想していますし、私は何かが生まれ物質化した姿より、全ての要素が溶け込んだ原始の宇宙、スープ状宇宙に興味を抱いています。

⑥ 坂口さんは、東京藝術大学大学院を修了された後、長らくドイツに滞在されていました。現代アートを考える上で、同地はどのような役割を担っていたのでしょうか？そして今、ドイツは、どのような役割を果たしているとお考えですか？

□ 当時の西ドイツに1976年から8年間、南ドイツのミュンヘン美術アカデミーの学生として滞在しました。

そこはドイツ中部のデュッセルドルフやケルンの新しい芸術を展開する都市と異なり、自然環境に恵まれた古典芸術の都としても魅力ある大都会でした。ヨゼフ・ボイスのミュンヘンでの最初の展覧会『汝の傷を見せよ』のオープニングに行きましたが、この時市議会ではこの作品の購入が大問題になりました。ヒットラーが旗揚げしたこの都市の恥部を収蔵するのかと。現

在の統一ドイツのメディアでも毎日繰り返しナチズム・人種問題、自然環境問題、男女平等などが議論されていますね。何がドイツ人を戦争に駆り立てたのかを、政治、教育、メディアの側面から現在の視点を入れて議論しています。戦中の芸術でも『退廃芸術』のレットテルでクレレーやカンディンスキーなど多くの芸術家が活動を禁止された歴史があります。ドイツの戦後芸術の展開には世界に広がるアメリカ文化とは異なる基盤があるからだと理解しました。

⑦ 今回の「坂口寛敏展 Field of Silence 2023年9月5日〜30日 Gallery KTO」個展に出品されている作品にはいくつもの魅力的な「線」が確認されます。会場奥の比較的小さなサイエズの《Field of Silence 23-5》に現れる有機的な線、《Field of Silence 23-1》上部で珪砂の質感によってドライポイントのような馴染みを感じられる線、さらに大作《Field of Silence 23-3》や《Field of Silence 23-4》における（斑）点の連続からなる線、螺旋形などです。様々な仕方で見み出される線は、坂口さんにとってどのようなものですか？ 線に限って参照されている芸術家はいらつしやるのでしょうか？

□ 参照している芸術家ではないのですが、幼少の頃から書家である父の揮毫する姿を側で見て育ちました。

父が揮毫した文字の意味より、書き崩した画仙紙の山には、表裏面に滲み出た線が重なっている様子が見えていました。子供部屋に入るのに反故紙の山にトンネルを掘って行かなくてはならなかった程だったし、身体の周りに墨の匂いと共に濃淡の

ある動く線が重なり合っていたのです。

⑧ 今回の出品作に限らず、坂口さんの絵画には、美しい「色彩」があります。とりわけ、青や緑が抜群に魅力的だと、私は思います。色彩はどのようなこだわりのもと、選択されているのでしょうか？

□ 生まれ育った福岡固有の光の環境が影響しているのでしょうか。福岡の南側は脊振山地があり、さほど標高はないのですが屏風のように連なり佐賀県との県境を形成しています。福岡の北側は玄界灘や博多湾という海域です。昼間の背振山地は逆光に、北側の海を見る時は背中に太陽があり全光になります。例えば南側に海があるニースやヴェニスと北側に海があるフランス地方とでは描かれる色彩領域が異なるのではないのでしょうか。特に福岡の、或いは九州北西部の夕焼けは海と空が茜色に染まり、その時の海水浴は忘れることのできない色彩浴になります。画家の色彩を見るとき、描いた場所（環境）、生まれ育った場所のことも考えます。

⑨ 珪砂（ガラスの原料、月面に多く存在）を使用された作品は、正面から見たときと横に回って見たときでは、画面が異なる仕方で見えます。前者では宇宙のような無限の奥行きが感じられ、後者では硬い物質としての表面が前景化しながら作品側面の濃紺のストライプがそそり立ちます。このように、静止した絵画作品が、動きつづける鑑賞者によって変容するという事態について、どのようにお考えですか？

□ 絵画の鑑賞は、最初から画面の正面に位置して見ることは

できないのです。絵画の画像は、大体三脚を立てて撮影された写真だったわけです。部屋の入り口から入ると視界が開け、作品の配置を理解し見る順序を決めて近付くのではないでしょう。まずは画面全体からの印象を受容します。それから興味のある部分へと近づいて技法や素材について情報を引き出そうとします。照明を利用し横から研究することも大切です。それらの描かれた情報をもとに再び下がって全体像を視野に入れ、作者の固有の表現法も含め鑑賞するのではないのでしょうか。

⑩ Gallery KTO 新宿の大きいサイズの作品では、奥行きある「空間」の中で、鑑賞者の目は特定の位置に固定されず彷徨い続けます。これは、描き出された各形態が、それぞれ多様な向きから眺められる可能性に開かれていることに起因するはずです。彷徨う目、もしくは方向喪失の感覚は、以前スノコ原宿にて見せていただいたパフォーマンス映像と通じているように思えます。というのも、その映像では、そこに立つ者の方向を失うような実際の空間、すなわち広大な干潟におけるパフォーマー坂口さんが捉えられているからです。長くなりましたが、絵画空間が実空間にも見いだされた作品としてその映像は捉えられる気がするのですが、いかがでしょうか？

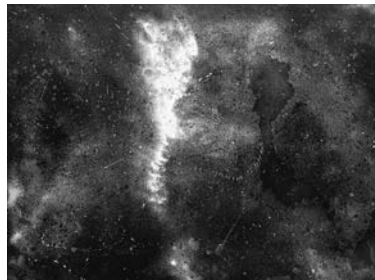
□ 今回のスノコ新宿は、6月に秩父のアトリエで制作し、この画廊の壁面3面を大型の絵画作品により色彩に包まれた空間にしたいと考えました。制作は画面を地面に平置き白い下地に光が満ちる黄色、次に全面に群青、それから飛散させた色を画面の周りから飛ばしています。珪砂は同様に空中に放り、画

面に叩きつけたりもしました。その画面に水で薄めたアクリルメデイウムの霧吹きを何度もかけて定着し、場所によっては布で過剰な珪砂を払っています。

7月の佐賀Kenjikanの個展では有明海の泥海で自らが濁スキを漕ぐ映像作品を制作し、前に記述した福岡の白砂の浜辺のドロインングと対比させて壁面いっぱい投影しました。私は、地殻と天球の間に私も絵画も存在すると考え、私の創作行為は具象抽象の領域を超え、何を描くかを脱し、如何に描くことができるかを追求しています。現代人は大きな安定繁栄を作り出したと同時に更に大きな危険と滅亡への環境も作ってしまった。私は、宇宙が無から始まり無限に拡張している様に、物質化する前の何かが生まれるための全てが溶け込んだスूप状態の大らかな絵画空間を目指しています。



パスカルの海—有明海2023



Field of Silence

江川文庫收藏館について



東原克行

(昭和45年卒)

1. 江川文庫について

江川家はその昔、初代は源頼近といい、大和の守となり以後8代まで奈良県大和の宇野の地に居住していました。1156年、後白河天皇と崇徳上皇の朝廷内部の皇位継承をめぐる争い、いわゆる保元の乱がおこり、崇徳上皇方は敗北し崇徳上皇を支えていた9代宇野周宜が平安時代の末期に13人の従者とともに、この葦山の地にやって来たと言われています。

それ以来、870年もの永きに亘って、この伊豆葦山の地に脈々と続いてきた江川家は、徳川の時代には伊豆、駿河のみならず、甲斐、武蔵、相模とさわめて広範囲な土地を行政支配地として持っていました。

代々、江川家が代官所を置いたこの葦山の地は、北条早雲や源頼朝等、多くの歴史上の人物が関わった重要な場所でもあります。江川家の周囲には北条早雲の居城であった葦山城を始め多くの文化財が点在しています。

歴代の当主の中でも36代当主、江川太郎左衛門は善政を行い

名君主との誉れ高い、文武両道にきわめて傑出した才能の持ち主でした。幕末、列国の軍艦が日本の周りに出没するようになると、真つ先に国防の大切さを悟り、江戸城を守るため、東京湾にお台場を埋め立て、長崎の高島秋帆の協力の下、反射炉（溶鉱炉）で造った大砲をそのお台場に設置したことは、日本の国防においてきわめて大きな功績でした。又、彼は吉田松陰の松下村塾のように、この地に葦山塾を作り、久坂玄瑞、佐久間象山、井上薫、榎本武揚等の多くの若い志士たちを集め、日本の礎となる人材を育てました。さらに、アメリカ帰りのジョン万次郎を迎え入れ、世界に大きく窓を開き、江川家には彼が撮影した日本で最初の写真が数多く残されています。

他には日本画の大家、谷文晁もしばらく江川家に逗留し、多くの絵を残しましたし、太郎左衛門も彼から日本画の手ほどきを受けています。江川家の母屋の棟には、日蓮が書き残した棟札が2枚残されていました。母屋に数百年間一度も火災がなかったこともあり、そのうちの1枚が火伏のお守りとして江戸城に献上されたと伝えられています。

又、秀吉の小田原攻めの時、同行した利休が江川家の裏庭で、節と節の間が割れた竹を見出し、それを使って作った掛花（花入れ）が東京国立博物館には収蔵されています。そしてこの不思議な竹は、江川邸の裏庭に今でも自生しています。

この様に、江川家には、幕末の日本の外交史上きわめて貴重な古文書、書画、典籍、焼き物、武器、古写真等の総数7万点にもなる文化財が残されました。それらを現当主（42代）の

父上が県及び国に働きかけ、後世の人々の役に立つようと、11年もの年月をかけて資料目録を完成させました。

そしてこの目録のうち、幕末に開国を迫る諸外国の圧力から、日本を守るべく腐心した、反射炉やお台場建設に伴う古文書他、約4万点もの膨大な資料が、平成25年に、国の重要文化財に指定されました。又、近年、反射炉は世界遺産にも登録されています。そして以後、江川家はそれらの貴重な文化財を保存する為の収蔵館の建設を、文化庁から依頼されることになりました。

2. 江川文庫収蔵館建設計画にあたって

高校の一つ先輩の伊佐裕さんのお嬢さんが、縁あって現当主の江川洋さんの奥様だった関係もあり、当時、東京都美術館や、福岡市美術館はじめ多くの美術館、博物館などを手がけていた、前川建築事務所に収蔵館建設の相談が持ちこまれました。そして、その時の担当だった私が独立後も引き続き計画を進めることになりました。

① 困難を極めた敷地選び

収蔵館建設には、平成26年から基本計画を始め、令和元年の8月竣工まで約5年近くの歳月がかかりました。その過程で敷地の選定は極めて困難を極めました。江川家住宅は葦山城址に近接していて、どこを掘削しても、いろんな遺構が出土し、当初、江川家の北側に位置する田んぼを候補地として検討を進めていましたが、案の定、葦山城の障子堀という遺構があることが判明して、敷地選びは振り出しに戻りました。

予測されたこととはいいながら、ここまでずいぶんエネルギーと時間を割いてきましたので、計画は行き詰まってしまいました。しかし、その後、伊豆の国市などの尽力を得て、江川家に隣接していた老朽化で近く解体予定の市の郷土資料館の跡地が、建設地として浮かび上がり、やっとのことで敷地はそこに決定することが出来ました。

この跡地は、既に土地が荒らされていて、未知の埋蔵文化財が出てくる可能性も少ないだろうという理由でした。しかし既存建物の杭部分以外はある深さ以上の掘削は不可でしたし、そのほかにもきわめて厳しい施工条件が付きました。

その結果、新しい収蔵館の杭等の位置もきわめて大きな制約を受け、当初は展示室や富士を望めるティーラウンジなどを計画していましたが、それも叶わぬことになり、規模も当初よりもかなり小さなものになりました。

② 収蔵庫の機能

約4万点もの重要文化財を収蔵する建物として、温度、湿度等、十分な保存環境性能を確保する為、収蔵庫内の壁、天井は外断熱の上二重構造とし、二重壁内部は空調された空気を循環させることにしました。

③ 高耐候性の外装材

建物の寿命を1年でも延ばすため、外装材は高耐久性の材料を選びました。外壁の腰壁部分は、赤さびが出来ても進行しない耐候性鋼の下見板張りとし、それから上部は断熱材の上に漆喰を施工し撥水材を塗布しました。又、建具などの外

部で使う金物はすべて耐候性鋼製型鋼とし、塗装は現在考えられる最高クラスの耐候性を誇る2液性の4フッ化フッ素塗料を採用しました(約40年は持つといわれる)。先にも述べましたが、屋根は躯体との間を空気が抜ける置き屋根構造とし、屋根板は通常は0.3mmの厚さですが、この収蔵館ではヨーロッパの教会などで使われて百数十年以上の耐久性を誇る1mmの無垢の亜鉛板を採用しました。

④ 環境との調和

江川家住宅など周囲との調和を図る為、収蔵館は配置、素材、色彩態等、十分に周辺環境になじむ設計としました。

⑤ 確実なディテール

庇を十分に出し、雨漏りなどの事故が無いように、きわめて手堅いディテールとし、管理、メンテのしやすさを第一条件に考え、長寿命建築として、又、重要な文化財の収蔵施設として、その機能を十分に発揮する建築物としました。

⑥ 美しく変化していく建築

時間の経過とともに、建築を構成するすべての素材の変化が、美しく周辺の環境に溶け込み、多くの人々に安らぎと喜びをもたらす建物としました。

3. 設計に託す思い

一般には、鉄筋コンクリートの寿命は約60年(人によればもつと短い)と言われています。そのことを思うと文化財を収蔵する建物の寿命としては、あまりにも短すぎます。正倉院等、

木造の建物は、何百年と風雪に耐えて今でもその美しい姿を見せています。しかし文化庁の指針では、収蔵庫は不燃でなければならず、おのずと火災に強い鉄筋コンクリート造を推奨しています。

何百年も伝わって来た文化財を守る収蔵庫の寿命が、永くても60年しかないとなると、設計者としては、その事実を自覚した瞬間愕然とします。

建物の機能が時代に合わなくなれば、その建築は寿命を迎えることは覚悟しています。しかし、建物そのものの寿命が、その機能の劣化よりもはるかに早く来るとしたら、何としてもそれは食い止めなければなりません。それが建築家の使命でもあります。

建築の寿命を決定するものには、建築そのものの物理的劣化と、機能面での劣化つまり社会的劣化といわれる、それを取り巻く人々の心の問題があります。

建築家はその両方を解決しなければなりません。建築の物理的劣化は、素材の劣化を防ぐことにより、かなりの部分食い止めることが技術的には可能です。しかしそれを取り巻く人々の心が解体を決断した瞬間、その建物は、解体される運命にあるのです。

100年いや200年持つ建物の寿命の命運は、設計者を含むその建築にかかわるすべての人々の心の中にあります。

私の建築の師である故 前川國男も、常に建築の中に永遠を追求して来ました。彼の人生はそれとの戦いであったと言って

も過言ではありません。彼は建築と人の人生をいつも比べていました。若い頃、パリのコロビュジェのアトリエで学んだ彼は、日本に帰り、ヨーロッパの建物に比べあまりにも日本の主に戦後の建物の寿命の短いことに、嘆いていました。又、人生の儂さを悟った瞬間、建築に永遠性を求めるとも言っていました。

数百年に亘り伝わって来た江川家の文化財に比較して、数十年足らずしかない現代の建築の短い寿命の現実を知らされた時、この江川文庫の収蔵館は、我々よりもずっと後の人々まで、大事にされ、愛されて存続すべきであると、願うばかりです。

愛情さえあれば、この収蔵館は100年でもいやそれ以上の寿命を持つように造られています。

※ 参考資料…公益財団法人
江川家住宅
(江川邸)冊子

江川文庫収蔵館概要

| | |
|-------|-------------------------------|
| 施主 | 公益法人 江川文庫 代表理事 江川洋 |
| 建物名称 | 江川文庫収蔵館 |
| 竣工日 | 令和元年8月31日 |
| 地名地番 | 静岡県伊豆の国市菰山字菰山2番4 |
| 敷地面積 | 604.08㎡(182.73坪) |
| 延べ床面積 | 463.90㎡(140.33坪) |
| 建築面積 | 280.27㎡(84.78坪) |
| 構造 | 収蔵庫部 鉄筋コンクリート2階建て 事務室部 鉄骨造 |



江川家住宅現在の佇まい



江川文庫収蔵館完成間近の写真

街のコミュニティを創る



駒田 由香

(昭和59年生)

人生100年時代と言われるこれからの時代に、集合住宅はどのようなポテンシャルを持ち、社会と関わることができるのか。集合住宅や住宅など暮らしに関わる建築設計を生業としている私たちは常にこの課題に向き合ってきた。少子化や空き家問題が深刻化し、家族のあり方が刻々と変化する時代に、地元である江戸川区西葛西においてさまざまな実践をしながら考えていく場を創ることとした。私たちが住む西葛西は東京の東に位置し、23区内では家賃が手頃で若い家族が多い。利便性も良くて大型スーパーやファミリールレストランなどチェーン店が立ち並び一方、個性ある個人経営の店舗は少なく、住まうことと働くことが分離していると常々感じていた。西葛西での職住近接の生活を始めて15年経った頃、西葛西アパートメント1(2000年竣工)の隣に、新しい集合住宅を設計する機会に恵まれた。設計者と生活者の二つの視点を持ちながら、大きく2つの目標を掲げて設計にとりかかった。

ひとつめは「地元西葛西の街に貢献する建築にしたい」。地

元に貢献するとはどういうことだろう。地域のだれもが立ち寄り、一息つけるような居場所が増えていけば街は変わる。そんな場所を地域の人たちを巻き込んでつくってあげればなお良いだろう。ふたつめは「住宅街の中で街が豊かになる賑わいをつくりたい」。住宅街の中では、商うことや働くこと、住まうことが同居することで賑わいは生まれるのではないだろうか。以前は当たり前のように職住が近い暮らしがあり、働く場所と住む場所は混在していた。公共ではない小さな建築に「商う」「働く」「住まう」「集まる」を詰め込み、さまざまな人が混じり合う賑わいを創り出したいと考えた。

ここまでは良かったが、実現するためには多くの難題を越えなければならなかった。まず小さな設計事務所の経営者にとつて、融資は大きなハードルとなった。次に建物の重要な要素である1階店舗をどうするか。また、当時は現在ほど一般的ではなかったワークスペース等の自分が求める働く場を、どう実現すれば良いのか試行錯誤の連続だった。とりわけ1階店舗の検討には時間がかかった。以前より生活に密着したベーカーリーに入居してほしいと考えていたが、開業してくれるベーカーリーが都合よく現れるわけではない。都内の有名ベーカーリーを巡りながら、地元で評判のゴンノベーカーリーマーケットにたどりついた私は、この企画を持ち込んで交渉を開始した。ベーカーリーオーナーの権野夫妻とは全く面識がなかったため、最初話を持ちかけた時はかなりの勇気がいり、なんども店の前をうろろしたことをよく覚えている。知り合いでもないオーナー

に恥ずかしげもなく誘致の話をする姿に事務所スタッフも驚いていたが、私はなんとか計画を実現したいと必死だったのである。その後私たちの思いに共感してくれたオーナーは、倍の広さになる新店舗に投資をして gonno bakery market をオープンしてくれた。今やこのオーナーとは建物の企画を実現した同志であり、一蓮托生の関係である。建物の構造については、構造を受け持つ十字の鉄筋コンクリート壁をグリッドの四隅に配置し、間仕切りが必要な箇所はコンクリートブロックや合板を用いた。階段室以外のモジュールは全て3m×3.2mのグリッドとし、標準化を徹底している。ローコストが前提だからこそその発想ではあったが、全てがシンプルに整理され、力強い建築になったと確信している。

こうして2年ほどの設計期間を経て、2018年9月に西葛西アパートメント2が完成。1階はベーカーリー+カフェ、2階は駒田建築設計事務所+コワーキングスペース、3階と4階は賃貸住居の複合建築となった。2000年に竣工した西葛西アパートメント1(写真右)と西葛西アパートメント2(写真左)は4メートルの通路をはさんで並んで建つ。通路中央にはスロープを設置して、だれもが自由に立ち入れる路地のような場所とした。住宅街を散策するとわかるが、集合住宅の敷地境界には生垣が植えられたり塀があったりして、基本的に外部の人は入れない。公園や図書館など公共の場所以外に、子供連れで気兼ねなく入れる場所は案外少ないと感じ、ぜひそのような場所を創りたかったのである。グラウンドレベルである1階を街

に開放すれば、街は変わっていくことを実感した。

建物を具体的に説明すると、グラウンドレベルである1階は階段3段分の高さにデッキを設置。地域住民がデッキに腰掛ける姿を想像していたが、駐輪自転車が想定以上に多く(それだけ来訪者が多いということでもあり)、日中は自転車(特

に平日はママチャリがずらりと並び、子育て世代の母親(もしくは父親)が利用していることがよくわかる。路地のような通路は「7丁目PLACE」と名付けて、さまざまな人が交錯する場になるよう意図的に設計した。例えば前面道路側からはパンを焼く様子が見えるが、店内に入るのには「7丁目PLACE」に面したエントランスからとなる。カフェや、コミュニティスペース「やどり木」、入居者エントランス、コワーキングスペース



西葛西アパートメント1(右)と西葛西アパートメント2(左)

ス「FEO.T (FAR EAST of TOKYO)」への通路にもなるよう動線を重ねた結果、「7丁目PLACE」は日々多くの地域の人々が行き交う場所となっている。「7丁目PLACE」から直接アクセスできるようにした、コミュニティスペース「やどり木」は、西葛西アパートメント1の一室を改修し私が運営している。保健所の許可を受けた「やどり木」は、さまざまな教室や飲食などのイベントができるスペースとして、地域の方々に利用いただいている。今後は、子ども食堂や絵本の読み聞かせなど、さらに活用していきたいと考えている。2階は、ワンフロアを弊社とコワーキングスペース「FEO.T」でシェアしている。コワーキングスペース運営もゼロからの挑戦であったが、以前より自宅でもなく職場でもない仕事場が地域に点在していくと街が変わ



平日の7丁目PLACEの様子

ると思っていた。空間は十字の構造壁が門型のフレームを構成していて、スペースに適度なまとまりを与えながら全体がゆるく繋がっている。2018年秋はまだリモートワークが一般的ではなかったものの、地元でサードプレイスを求めている人は多くコロナ禍をまたず満席となった。現在も少しずつ手を加えながら運営を続けている。コワーキングエントランスには幅3メートルのキッチンを設置し、受付がわりとした。オフィスには不相応な大きさのキッチンは、コーヒーを淹れるたびに人が留まり、利用者同士のコミュニケーションが生まれる場所にもなっている。このスペースの運営を通して、働き方が大きく変わる様を目の当たりにし、私たちの設計活動や今後の生き方にも大きな刺激を受けている。

5年間この建物を運営していて、「7丁目PLACE」は多様な人々が行き交う「目的を持たなくても良い場所」ゆるやかな居場所」になっていると感じる。ペーカリーに入る人、マルシェに参加する人、テラス席でくつろぐ人、「やどり木」の庭で遊ぶ子供、コワーキングスペースで仕事する人、アパートの住人、屋上テラスにヨガを習いきた人、今日もさまざまな人々の賑わいが街に溢れ出している。最近では、コワーキングスペース利用者が週末「7丁目PLACE」でマルシェを開催したり、「やどり木」で教室を開くなど、建物を使いこなし横のつながりも生まれている。街にゆるやかな居場所が増えてゆけば、想像できなかったような人と人の繋がりが生まれ、街を変えていくきっかけになると信じている。

自分らしく



山口 大輔

(平成12年卒)

「バスケットボール好きな人、手を挙げて」

ある小学生対象のバスケットボールクリニックに行った時の事。綺麗に体操座りをして並んだ子どもたちはみんなそれぞれに顔を合わせ、誰も手を挙げなかった。あれ、と思つて「バスケットボール嫌いな人は？」と質問を変えてみても誰も手を挙げる子はいない。「じゃあバスケット好き？」もう一度聞くと、またまわりと顔を合わせながらひとり、ふたり、と手を挙げる子が現れ出して、最後には全員が手を挙げた。「みんなバスケットボール楽しいのかな？」と確認。子ども達は何か気まずそうに頷いた。「楽しい！」と元気に手を挙げたり、声を出す子はひとりもいなかった。

「なるほど」。日本に帰国して以来ずっと感じていた違和感^①に対する答えがこの時見つかった気がした。

アメリカでの経験

運動はあまりできないが、とにかくスポーツが好きだった僕

は高校3年時にアスリートをサポートする仕事に就きたいと考えるようになり、アスレティック・トレーナーになることを目指した。センター試験を終えた後、希望していた筑波大学体育学群の受験では数種スポーツの実技が課せられた。他の高校からの受験者達は、聞くとそれぞれの部活で全国大会出場経験者ばかりだった。「運動はあまりできないが、スポーツが好き」な僕は躊躇った。

結局一浪した後も筑波大学には合格できず、受験勉強に疲れた僕はアメリカへの留学を決意した。小学生の頃からスラムダンクとマイケルジョーダンの影響でNBA（アメリカプロバスケットボール協会）に憧れ、「いつかアメリカへ」と心の奥底で考えていた自分にとって大学不合格の知らせが渡米を決断するきっかけとなった。2001年6月、19歳の時だった。

当時アスレティック・トレーナーのカリキュラムが存在した大学は80校ほど。その中で自分の学力と金銭面に合致したのがアメリカ中西部にあるインディアナ州のテラホートという小さな街にあるインディアナ州立大学（ISU）だった。ISUでのキャンパスライフは何もかもが新鮮で刺激的だった。全くわからない英語でのコミュニケーションの日々、ウォルマートというスーパーがあるという理由だけでテラホートが世界一素晴らしい街だと言いつける人々、大好きなバスケットボールや様々なスポーツを楽しめる環境、どこまでも真っ直ぐに伸びる道路を走らせながらのロードトリップ、友人達とのホームパーティー……。勉強はそっこのけでアメリカン・ライフを僕は思う

存分満喫していた。

ただひとつ苦労したのは、ディスカッションを基本とするアメリカの文化だった。授業に限らず私生活においても自分を肯定し、自己主張を得意とするアメリカ人とのコミュニケーションはなかなか容易ではなかった。音楽の授業で「あなたの好きなミュージシャンについて話そう」とお題が出たり、実習中に「好きな映画のワンシーンって何」と言われた時に、アメリカ人の知るアーティストや映画を知らなかった僕は戸惑った。ユニコーンやブルーハーツ、ジブリの話をしたところで、皆からの共感を得られない気がして話をするのが気が引けた（今ならジブリは通じるかもしれないが）。クラスメイトたちはそれぞれ僕の知らないアーティストや映画について自信たっぷりな話をし、僕はただ笑顔を振る舞いながら皆と同調するのが精一杯だった。当時の僕は、アメリカ人達との会話がうまくいかないことを母国語でない英語や日本人であるというバックグラウンドの「違い」のせいにして、「仕方のないこと」と半ば諦めていた。

ある日、いつも仲良くしている友人数名とライブミュージックを聴きに行こうと馴染みのバーに出かけた。ノリのいいポップな曲を聴きながら、お酒の力も手伝って僕のテンションはMAX。気づくとバーのテーブルに立ち上がって踊り出していた。それを見たバーにいた他のお客さん達のボルテージは上がり、僕のところによって来て「オマエ、サイコーやな！」と次々にチップを渡してくれた。どう勘違いしても自分のダンス

そのものが「サイコー」だったとは思えない。それでも、美味しいお酒を飲んで、気持ちの良い曲を聴いて、沢山の人たちと交流した後で僕は50ドルのチップを手にしていった。アメリカという国で大切なのは、上手に英語を喋れることや周りの事を気にして共感を得ようとする事ではなく、自分自身が楽しい、良いと思う事がありのままに表現できる力。それができれば自ずと評価してくれる人が現れてくれるんだ、ということを実感した出来事だった。自分に羽が生えた実感があった。

「羽を手に入れた」僕はその後アメリカ人とのコミュニケーションにも慣れ、「NBAで働く」という目標に向けて大学外での繋がりを求めて動いた。2005年にインディアナポリスで開催されたシンポジウムにボランティアとして参加した際、くだらない話で意気投合したおっちゃん（NFL（アメフト、プロリーグ）インディアナポリス・コルツのアスレティック・トレーナー）だったのをきっかけに夏合宿での学生インタンの機会をもらった。コルツでのインタンを終えると、大学の教授がNBAインディアナ・ペイサーズでの学生インタンの募集がある事を教えてくれた。面接ではコルツでの経験を評価してもらい、ペイサーズでのインタンのシッピングのポジションを獲得した。憧れのNBAでのインタンでは、自分自身がNBAで働くために足りないものが何なのかを明確にできた。足りないものを身につけるために進学した大学院では、教授からの紹介でNFLファイラデルフィア・イーグルスでのインタンをさせてもらった。イーグルスで働いている最中には別の教授か

ら「NBAで働きたいんだよね？」と電話があり、僕はいつの間にかNBA、サンアントニオ・スパーズでアスレティック・トレーナーとしての仕事をゲットしていた。スパーズが僕を雇うと決断したのは、謙虚で勤勉な文化を持つ日本育ちであることと、フィデルフィア・イーグルスのボスたちからの推薦があった事が大きかったらしい。

自分が「やりたい」と思った事に向けてただひたすら動いているうちに、日本育ちというバックボーンと沢山の恩人との出会いの連鎖が起こり、夢が現実となった。2007年の9月のことだ。

サンアントニオ・スパーズ

サンアントニオ・スパーズはテキサス州サンアントニオに本拠地を置き、1997年～2019年までの22シーズン連続プレーオフ出場、NBA記録と、5回の優勝記録（1999、2003、2005、2007、2014）を持つ、現在のNBAの基盤を作ったと評されるほどのチームだった。その頃僕がよく見ていたコービー・ブライアント率いるロサンゼルス・レイカーズや華麗なパス捌きで一世を風靡していたステイブ・ナッシュのフェニックス・サンズを地味なブレイクスタイルで負かす基本に忠実なチームという印象が強く、本音をいうとあまり好きなチームではなかった（笑）。

そんな「あまり好きではなかった」スパーズとの契約が決まり（もちろん嬉しかったですよ）、はじめて練習施設に足を運

んだときの事だった。チームに所属する選手、コーチ、スタッフの誰もがこの小さなアジア人がいるところまで、わざわざ握手と挨拶をしに来てくれた。NBAという、バスケットが好きなら誰もが憧れる世界トップのエリート達があまりに「普通」に、つい昨日まで「一般人」だった僕にそうやって挨拶をしてくれることに衝撃を受けた。「ここにはそんな上下関係は存在しない」そんな「リスペクト」を感じた瞬間だった。

憧れていた職場での仕事は「働く」という言葉が違和感に感じるほど楽しく、沢山の学びと経験に満ち溢れていた。なかでもスパーズを長年リードして来たヘッドコーチの「ポップ」ことグレッグ・ポポビッチと一緒に仕事できたのは僕の大きな財産となった。NBA歴代最高の勝利数を持ち、2021年に行われた東京オリンピックでは金メダルを獲得したアメリカ代表チームのヘッドコーチを務めたポップは、バスケットボールのコーチである以上に教育者であった。

当時のチームはアメリカを始め、アメリカ領バージン諸島、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、イタリヤ、フランス、オーストラリアという様々な国とバックグラウンドを持つ選手達で構成されていた。アメリカ人は自己主張が強いが、カナダ、オーストラリアの選手達は努力家でチームメイト思い。バージン諸島出身のベテラン選手は基本マイペース、コーチやスタッフから勧められたことに関して本人が「絶対に必要」と思わない限りは受け入れなかった。フランス人達はウエイト・トレーニングをほとんどやりたがらず、美味しい食事とワインとパー

ティーを優先しがちだった。アルゼンチンの選手はオーソドックスなプレーとはかけ離れた、自由な発想のプレーをし続け「これが僕らしさだよ」とコーチ陣を困らせた。ブラジルの選手は基本楽観的、イタリア人はブラジルとアルゼンチンをミックスしたような自由で楽観的な性格を持っていた。

個性あふれる選手陣に対してポップは、毎回のチーム練習始めにメンバーが出身とする国々の政治状況や文化、最近起こった出来事について聞いたり、家族との日常を皆でシェアする時間を作った。お互いの日常やバックグラウンドを知る事で、それぞれが個性と役割を理解できるようになり、チームとしてのつながりは日々強くなっていった。いつもメンバーひとりひとりと対話を大切にし、「Life is bigger than basketball」(バスケットボール以上にどう生きるかが大切だ)と何のために生きていくのを忘れないようにリマインドしてくれた。エースポイントガードであるトニー・パークアの第一子の出産日とプレーオフの試合が重なる、「試合には来るなよ」と出産の立ち合いを優先させ(無事試合前に子供が生まれ、結果的にトニーは試合に間に合った)、疲労により選手の士気が上がらないと判断すれば練習を5分で終わらせて、皆にしっかりと休養を取るよう施した。

大好きなバスケットボールでお金をもらえている事に対して常に感謝し、謙虚である事の大切さも教えてくれた。たとえば試合に勝ったとしても、できる事を48分間(NBAは1試合12分×4クォーター)出し切らなければ怒鳴って怒った。逆に試

合に負けても、やるべき事をやっていたのであれば「よくやった。相手が上だった、仕方ない事だよ」とチームを褒め称えた。やるべき事をやっていたとすれば、それがスーパースターのティム・ダンカンだろうと、ルーキーのカワイ・レナードだろうと同じ度量で叱った。常に全員に対してフェアだった。

それはチーム関係者であろうと一緒だった。試合前でも高校や大学の指導者の練習見学を快く受け入れた上で真剣に戦術に関するディスカッションをし、またある時は試合の前後で相手チームのコーチと親しく談笑する姿を見かけることもあった。記者会見で失礼な質問を受ければ、そのレポーターをその場で指導することも多かった。そんなポップのフェアな行動のひとつひとつが僕の心に深く残っていった。それは他のチームメンバーにとつてもおそらく同じことで、現在はそんなポップの教えを受けたコーチやスタッフがNBAの3分の2、もしくはそれ以上のチームで活躍している。

僕にとつて7年目となった2013-2014年のシーズン、スパーズは7年ぶり5回目のNBAチャンピオンとなった。チームを引っ張ってきた選手達がピークを過ぎた中、それまで築いてきたスパーズの文化と若手選手の個性を融合させ、ミスの少ない「規律」とパスを重んじる「協調性」のあるチーム力で勝ち取った優勝だった。そのアンセルフィッシュな戦い方はバスケットボール界に限らず世界中の多くのスポーツ関係者に賞賛された。

その夏就労ビザの更新期限が終わった僕は、日本に帰国する事を決意した。多くを学び、経験することのできたアメリカ生活14年間だった。

違和感

日本に帰国後は、東京御茶の水にある東京医科歯科大学（医科歯科）スポーツサイエンスセンターで仕事をする事になり、同大病院と繋がりのあるアスリートのトレーニング指導が僕の担当のひとつとなった。

陸上各種、格闘技、球技、ウィンタースポーツなど、様々なジャンルのアスリートと接する中で、日本のアスリートの律儀さ、真面目さには驚いた。言われたことをしっかりとこなし、トレーニング後の片付けは率先して行い、日々の練習やトレーニングをサボる事はしない。どんなアスリートも指導者への敬意や感謝を示し、どのような内容のトレーニングであろうと一切文句は言わなかった。そんな彼らの振る舞いに最初は感心していたのだが、しばらくすると感心の気持ちは「違和感」へと変わっていった。

日本選手権で数回の優勝を誇る女子棒高跳びの選手は、他と「比較」して体格ががっしりしすぎという理由で減量に取り組んでいたが、食事を改善しても成果が出ず苦しんだ。そりゃそーだ、彼女の体脂肪率はすでに10%を切っていたのだから。それでもうまくいかない事を「自分の努力が足りない」と自らを否定し続けた。

中学時代にアジアチャンピオンになった幅跳びの選手は、「有名」になったことで様々なコーチから指導を受ける事となり「自分の型」を失った。以降怪我が増え、大学に入ってから自己ベストを更新できなかった。

国内屈指のタレントを揃えた大学バスケットボールチームの選手達は、取り組みたい課題が何なのか答えられずコーチから「与えられた」練習を覇気なくこなすのみだった。チームはシーズン始めの成績こそ良かったものの、終盤には失速し、インカレでの成績は振るわなかった。

違和感だらけの日々が続いた。国内トップクラスのアスリート達が周囲との比較や、評価にとらわれ、「受け身」になっていた。結果自分の「強み」が何か明確にできずに、本来持っている才能を引き出せないままだった。

「何故そうなってしまったのか」

そう疑問に思っていた時に、小学生対象のバスケットボールクリニックでの指導の誘いが舞い降りてきた。

自分らしく

「バスケット好き？」と問われた子供達は「周りの目」を気にしていた。「好きなバスケットボール選手はいる？」「どんな選手になりたい？」他のクリニックに呼んでもらう度に様々な質問を投げかけるも、彼らの反応はほとんどいつも変わらなかった。こちらから誰かひとりを指名すると、戸惑いいつも答えは返ってきた。考えがない訳ではない。自分の考えを素直に表現する

のが難しく、間違えること、違うことを恐れていたのだ。

トップアスリート達も同じだった。周りと同じであろうとする事が習慣となっていた。僕がアメリカで体験した、ディスカッションや自己主張を好み、思ったこと、感じたことを自由に表現していた人々や選手たちのそれとは異なるものだった。

アメリカでは、違うことを恐れず自分の気持ちをありのままに表現することが当たり前だった。「NBAに行きたい」と言えば、ハッキリ「無理だ」と言われることもあったが後押ししてくれる人もその分いた。周りがどうであろうと、自分が正しいと思う事は「正しい」と誰もが主張した。ひとりひとり各自が本気だった。

言いたい事はかり言うのが良いと伝えたいわけではない。周囲を気にかけて敬うこと、規律と協調性を重んじることは組織としてのパフォーマンスに大きなプラスをもたらす。サンアントニオ・スパーズの多国籍で個性豊かな選手達は、お互いをリスペクトし、それぞれの個性を活かした規律と協調性のあるバスケットボールで優勝を遂げた。そのスパーズは、日本人の「謙虚で勤勉な」国民性を理由のひとつとして僕を雇う決断をした。

高校時代勉強も運動も大してできない上に、朝はしょっちゅう遅刻、授業も寝てばかりの人間が、NBAで働けるようになるかと誰が想像しただろう。それでも「NBAで働きたい」その想いのみで具体的なプランは何もない19歳を、家族や先生方、友人達は否定する事なく送り出してくれた。結局単身でアメリカ

かに飛び込んだ後、自分の考えは甘かったと気づくことになった。何度も日本に帰りたいと思ったこともあった。でも「自分で決断した」事だったから、周囲の「応援」があったから、そこから逃げたら全てが終わるという覚悟が持てた。その覚悟と日本で培ったバックボーンが背中を押し続け、結果として沢山の人間との出会いに繋がった。

言いたいののは、やりたいこと、好きなこと、気持ちのいいこと…、「自分らしくある」ということを大切にしてほしいということ。バスケットボールが好きなら「好き」と胸を張ればいい。別に嫌いだっていい。やりたくないなら「嫌だ」と言っただけいい。謙遜することや、周りの迷惑や、違うことに気をとられ過ぎず、



心から自分が「ポジティブに」なれる事を積み重ねる事が「自分らしさ」を磨いてくれるはずだ。その上で周りにいる人たちが「らしく」いやすいように、他が自分とは違うということを認められるよう努めてみてほしい。賛成できなくてもいい。そうしているうちに、みんなが「らしく」いられる、イキイキとした空間が広がっていくはずだと僕は信じている。



2023年11月 ダイス・ヤマゲチ

キャリアセミナー

六星会キャリアセミナー



若生 暁子

(平成6年生)

卒業後三十年。私は三人の中高生の母となっていた。進路について頭を悩ます日々である。自分の時はどうだっただろうか？ 浅い知識と偏った少ない情報の中で進路を模索していたように思う。今の仕事を選んだことに決して後悔はしていないが、子供達にはもっと広い世界を知って欲しいとは思っている。そんな母親的思考で今回、キャリアセミナーを取りまとめることを引き受けた。

まずは四十人の講師選び。同級生達は皆、様々な道を歩み今に至っている。学生の頃の夢に向かって真つすぐキャリアを積んできたものもいれば、紆余曲折を繰り返して今に至るものもある。今は転職が当たり前の時代。多彩な経験こそ高校生に話をしてほしいと思った。今回、色々なジャンルの同級生が集まってくれたことは、高校生が社会を知るスタートとしてよいきつ

かけになったに違いない。唐突な講師依頼を快く引き受けてくれて、日本だけでなく海外からも集まってくれた講師陣には深く感謝したい。

五月二十六日 快晴。しょっちゅう床が抜けていたあの頃の校舎とは違い、新しくなった校舎に少し戸惑いながら集まった講師陣であったが、旧友と学食で昼食をとり、歓談している間に気持ちは少しほぐれていったようであった。さあ、いよいよ本番。キャリアセミナーは現役生のお迎えから始まった。

四回の転職を繰り返し、公務員となった彼は、自己分析や十年先の未来を描くワークアウトを行った。

麻酔科医の彼女は、医師として母としての日々の話と、実習の点滴を使って生徒たちに実際に点滴を行う機会を作ってくれた。

SE・プログラマーとして活躍する彼は、今、学習している高校数学がどのような場面で役に立っているのかを解説してくれた。

演奏者から指揮者、指導者となった彼らはコミュニケーション力について話をしてくれた。時折その教室からはリズム打ちや館歌を熱唱する声が聞こえてきた。

野球好きの料理人。自分はパソコンは使えない。ひたすら九十分しゃべるだけで時間が持たせようかと心配していたが、気づけば時間オーバー。生徒が感想を書く時間がなくなっていた。

全ての講座を紹介できないのは残念であるが、どの講座も講

師が不安な気持ちもある中、試行錯誤を重ねて作ったものである。たとえ今、その真意が理解できなくても、生徒たちがこれから先の人生のどこかで立ち止まった時、「そういえばあの時、おじさんがあんなこと言っていたなあ」と思い出し、少し前に進めたらそれでいいと思う。

今年度のキャリアセミナーは総会と同日開催。講師陣もキャリアセミナーが終わればすぐに総会スタッフとしてホテルに向かわなければならなかった。生徒たちの感想文を直接受け取ったり、質問に答えてあげたりする時間がなかった。講師を追いかけて質問に来てくれた生徒もいたが申し訳なかった。講師陣には総会が終わった後に生徒たちの感想文を渡した。そこには所定の用紙にびっしりと感想や質問が書かれていた。自分の伝えたかったことがちゃんと伝わっているだろうかと心配していた講師陣であったが、感想を読んで、自分の思いが伝わっていることにいたく感動していた。生徒たちからの質問に対しては後日、丁寧にレポートにして答えてくれた。このやり取りはとても嬉しかった。先輩から後輩へ想いが繋がっていくのを感じた。キャリアセミナーを終えた講師たちからの感想を一部紹介する。

- ・ 修猷生の皆さんが真剣に話を聞いてくれたことに感動した。
- ・ 生徒の理解力と吸収力に驚いた。
- ・ 自分の仕事を俯瞰して考え、自分はどんな仕事をしているのか、どこに面白味を感じるのか、改めて純粋な気持ちで振り返る良い機会となった。

- ・ 自分自身、キャリアや人生を振り返る、また自分自身の将来を考える良い機会となった。
- ・ 生徒のみなさんの感想がとても素晴らしく、直前の準備に追われて湧き出した幾ばくかの後悔の念や疲れが一気に吹っ飛んだ。

講師は生徒の親の世代。親とキャリアについて話す機会も限られるが、本セミナーのようには他者のキャリアを聞けるのは良い機会。

会を運営するにあたってキャリアセミナー部会メンバーの細かな気配りでの講師サポート、抜かりない準備がなければできなかった。みんなお疲れ様でした。このような機会を与えてくださった修猷館高等学校、ならびに同窓会の皆様にも深く感謝申し上げます。

今回のセミナーを聞いてくれた生徒たちが二十年後、三十年後、自分の選んだ道で自分らしく輝いていることを祈っている。



令和5年度 卒業生キャリアセミナー

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 工藤 敦子 | 「最高のバトンをつなぐために」飛行機の運航を支える客室乗務員の仕事とは | 高田 雅章 | 心の病気を抱える方々への生活支援～精神障害者福祉における相談支援の仕事～ |
| 飛田 朋子 | トレンドを作って、売り出す広報・PRって面白い! | 蓮井 栄二 | 天文学を志した高校生が専門学校で教員になるまで |
| 小田 健太 | スポーツ新聞の編集など | 神成 洋子 | 小学校教諭から子育て支援員へ～1歩1歩進んで見つけたもの～ |
| 福本 秀幸 | TV局の仕事ってどんなの? | 盛坪 桂子 | Let's enjoy “出会い”～知らない地でも、出会いを楽しみ、遅咲きできた話～ |
| 佐々木 誠 | 「未経験から始めるIT業界」 「こんなところで役に立っている高校数学」 | 村上美奈子 | 特別支援教育と海外の教育現場-教育や学校のあり方を根本的に考える- |
| 馬屋原 泰 | 「若い時の苦勞は買ってでもせよ」と言われても腑に落ちない方へ | 岡 武志 | ファンドの仕事とは? |
| 花吉 敬文 | 建設業界での転職、発注者というかわった仕事 | 加藤 圭介 | 地方銀行の使命～地域の元気を創造する～ |
| 福田 大 | これが最強のものづくりだ! ～ものづくりをささえるロボットとモータの世界～ | 平島 亮 | 人生100年時代のキャリアプラン |
| 宗像大五郎 | ①東南アジアでの仕事②脱炭素/生物多様性社会に向けた森林について③商社の魅力 | 若原 孔明 | コミュニケーション能力を仕事や人生に役立てよう! |
| 廣方玄太郎 | 消化器外科医としての道 開腹からロボット手術まで | 岩下 光樹 | 様々なジャンルの音楽の世界 +リズムについて |
| 水城 安尋 | 整形外科ってよく美容外科と間違われるんだけど何をしている科? | 安元 勝宣 | 福岡県庁の行政事務の業務内容について |
| 村田 大 | 開業整形外科医とは? (医師になりたいが、言い出せない君へ) | 藤井 清吾 | 福岡県が誇る農林水産物を食べて応援しよう!～福岡県ワンヘルス認証制度について～ |
| 星野 典子 | 麻酔科ってどんな仕事? やりがいはある? 実際に医師になってみて思うこと | 米岡 史子 | 福岡市に住む人のよりよい明日のために～市職員のお仕事～ |
| 吉田 英子 | よくばりな私の生きる道 かわいいおばあちゃんになるために | 山西 信裕 | 弁護士業、あるいは争いごとが嫌い、かつ口下手、かつ絶叫系が苦手な人が紛争の中で生きる日常 |
| 田原 裕之 | 医療機関の外で働く社会医学系医師の仕事 | 坂井 大輔 | モノづくりとコトづくり! 建築設計の醍醐味 |
| 井上 尚子 | 製薬会社にまつわるお話、薬の価格はどうやって決まる? メディカルアフェアーズって何? | 井上 辰之 | 本気でやりたいことにチャレンジする～やればできる～ |
| 黒木 章子 | “添付文書”って何? 薬剤師だけじゃない薬の仕事 | 小河 泰史 | 起業/スタートアップ経営のリアル～渋谷で働く社長の告白～ |
| 石田 英子 | 薬剤師の仕事いろいろ ～働きながら道は広がる～ | 濱田友紀子 | 自分らしく、好きを仕事に。 キャリア0・海外発-日本の伝統を繋ぐアパレルブランド起業 |
| | | 野美山健志 | 家業の継承はベンチャーだ!! ～二代目にはメリットがいっぱい～ |

資料館案内

資料館の燻蒸と展示替え

田中雅美

(昭和50年卒)

修猷資料館は同窓会第3代会長 江浦重成氏（大正2年卒）が昭和51年、藩学以来190余年にわたる古文書・教科書類や、各界で活躍した先輩の作品などを保存し、後輩の生きた教材とするために私財を投じて建設されたものです。それから約40年経過した平成28年、建物の老朽化と各種資料や作品の増加に伴い、展示室の面積を約2倍に広げ、リニューアルしました。以前は現在の第1展示室だけでしたが、第2展示室の増設により展示品をゆとりをもって展示することができています。

それから6年が経過した令和4年、資料館運営委員会で、燻蒸（収蔵物の防虫、防カビ、簡単にいうと消毒）をする必要があるのではないかという議論が出ました。また、リニューアルオープンからそれまで、一度も展示替えをしていなかったことも議論され、燻蒸の際に合わせてすれば効率がいいとの結論になり、準備に入りました。具体的には、展示物をすべて収蔵庫に入れ、収蔵庫にガスを注入します。そのまま約24時間密閉します。ガスは非常に強力で、もし漏れ出て、その建物周辺に人

がいれば大事に至ります。業者によるとそのような事故で死者が出たこともあったそうです。学校とも相談し、時期は前後期の間の休みの期間、10月1日から3日に実施。もちろん生徒は資料館周辺の立ち入りは禁止です。業者の方は車で泊まり込みです。ご苦勞なことです。

その準備として展示中の資料・作品を一旦収蔵庫に移すのですが、それは資料館運営委員の仕事です。燻蒸後、元の展示ケースに戻す必要があるわけで、それがわかるように整理しながら作業します。絵画類は見た目以上に重たくて、壁面から取り外すだけで一苦勞です。一番重たかったのは五輪旗です。また、これは少し高い位置に展示してあります。脚立を使用しての取り外し及び収蔵庫への運搬は、力持ちの現役生（ラグビー部）に手伝ってもらい、感謝の気持ちで、少しでしたがお菓子をプレゼントしました。

前述しましたように、この機会に展示替えを実施しました。展示室に展示されている資料・作品は常に光にさらされているわけで、紫外線による色あせ等の劣化が心配されますので、本来は1年くらい展示した後は収蔵庫に移すことが望ましいようです。また収蔵庫には、本来ぜひとも展示するべきである資料や作品がまだまだ数多くあります。そこで、もちろん全部ではありませんが、展示替えのリストを作り収蔵庫にある新たに展示予定の現物を確認しました。そこでびっくり仰天です。収蔵庫から出してみると、大きすぎて展示できなかつたり、額縁が傷んでいて修理する必要がある、展示を断念せざるを得なかつ

たりです。また、収蔵庫内の環境もけつしてよくないので、カビが生えていて展示に際しカビを取ったり、ガラス面を磨いたりする必要があるものもありました。たとえば額から色紙を出そうとしたら簡単にできず、専門業者に頼むしかないものもあつたりで、次々に問題が出てきました。

展示品を収蔵庫に移動させた後は展示ケースは空になります。この機会に清掃もしました。何から何まで初めての経験でしたので、煙蒸と展示替えて運営委員も4〜5日の出勤(?)となりました。以後、煙蒸は3年から5年間隔で行おうと思います。また、展示替えは少しずつでも毎年するつもりです。

骨折りな作業でしたが、いろんな資料や作品に触れることができ楽しくもありました。どうぞ資料館を訪れてください。ただし残念ながら月1回ペース程度の開館です。開館日は修猷館HP資料館の一般公開に掲載されています。また学年同窓会や有志で見学希望の際は学校にご連絡ください。今、音声案内の準備を進めております。ぜひご利用ください。

資料館運営委員会委員長

資料館の収蔵品から (その3)

田中 敦

(昭和36年卒)

光安 浩行 (1891〜1970、明治44年卒)

明治44年修猷館卒業後しばらく太平洋洋画研究所で研鑽、その後福岡で生活、結婚を機に再び上京し太平洋美術校教授となり、文部省美術展覧会(文展)、太平洋美術画会展に出品して文展無鑑査待遇となった。昭和22年奥瀬英三、大内田茂士らと具象絵画の集団示現会を創立し、日展、示現会に出品を続け、昭和47年には日展評議員に就任した。

展示作品は「阿蘇山」(F12号)、「霧島山」(F10号)、修猷館校舎内に「高原の秋」、「早春」、「桜桃の咲く丘」を展示。

なお、現在の示現会では井上武さん(昭和37年卒)が常務理事、日展特別会員として活躍している傍ら修猷美術東京会の指導も行っている。作品「岬への道」を収蔵。



霧島山



阿蘇山

水上泰生（1877～1951、明治34年卒）

福岡市住吉に生まれる。修猷館卒業後東京美術学校日本画科を首席で卒業、寺崎広業に師事した後帰郷し、福岡県女子師範学校教諭などをつとめる。その後再度上京して文部省美術展覧会（文展、その後の帝国美術院展覧会（帝展））に出品、帝展委員となった。写生的な花鳥画を得意とし、特に鯉を描いては第一流であったため、「鯉の水上」と言われた。

展示作品は「鯉」（扇面）で、この他に「花鳥図」、「松（帯地）」「六曲一双屏風」を収蔵。



鯉（扇面）

小田部 黄太（1959～、昭和53年卒）

彫刻家小田部泰久の長男として福岡市に生まれる。昭和59年東京芸術大学美術学部彫刻科を卒業、平成4年から九州産業大学造形短期大学に奉職し、現在同大学の学長となる。

現在福岡県美術協会会員として市・県美術展、グループ展などに鉄材を溶接した構成的な作品を発表している。

作品「RYU」は資料館の庭に展示。



RYU

河原 大輔（1921～2006、修猷館教諭）

東京都台東区に生まれる。その後久留米市に移住し、私立南筑中学校（現久留米市立南筑高校）を経て東京芸術学校（現東京芸術大学）彫刻科卒業、県立三潴高校に奉職。この頃から彫刻制作から油絵に転向した。昭和38年修猷館に赴任し、以後16年間美術の指導に力を注いだ。修猷館退職後は福岡美術研究所長や九州産業大学芸術学部の非常勤講師を務めた。

指導は生徒の自主性を尊重し、違う表現を示唆するだけであつたが毎年東京芸大をはじめ多数の美大に合格させた。また、三男の河原美比古さん（昭和42年卒）は東京芸術大学を卒業後九州産業大学の教授を務め、四男の河原成美さんはラーメンの一風堂の創始者である。

修猷館校舎内に「花（つばき）」を展示、そのほか「コート・ダジュールの風景」、「港の風景」など多数収蔵。



花（つばき）

華道という獣を繋ぐ



華道部OB

浅野 由布菜

(令和3年卒)

私は約二年前まで修猷館の華道部の一員として活動していました。コロナが蔓延するまでは先輩方の背を見て学び、私達も先輩方のように活動していくのだと漠然と思っていましたが、二年生に進級すると、コロナで休校となり、部活動もできない状況に陥りました。週に一度しかないお稽古は、私の心の癒しでした。お花屋さんから届けられた鮮やかな花を手にとり、今日はどの器にどんな風に生けようかと仲間と話しながら悩む時間も、思い通りにいかない花に苦戦しながら先生に助言をいただき、納得のいくまで花に向き合う時間も、最後にお互いの作品を鑑賞し合う時間も、どれもとても貴重なものであったことに気付かされました。

学校が再開され、私たち六人はようやく「花いけバトル」という大会の舞台に立つことができました。コロナ禍でできな

かった分、先輩たちよりもたくさん練習したいと思い、先生方に協力してもらいながらたくさんさんの花や大きな枝、竹などを用意して、遅くまで練習に取り組みました。上手いかず悔しい思いをしたことも多かったのですが、仲間と協力して普段よりたくさんさんの花を生けた時間は今でも大切な思い出です。また、先輩がその竹などを利用して練習に取り組み、大会で輝かしい成績を収めていることを、先輩としてとても誇らしく思います。今回は、その後輩たちの活躍を紹介します。

【千家古儀の生け花・お稽古と儀式の花】

私たちは、華道師範である加藤先生のご指導のもと、華道家古儀という流派の生け花を学んでいます。普段のお稽古では、型を学び、型を守って生けます。入学式や卒業式では、大作の生け方を学びます。枝や葉の向きは自然の草木と同じであるか、作品を正面から見た時にどのように花を生ければ美しいか、色彩やバランスは適切かなどを学ぶ貴重な機会です。また、校内にも部員が生けた作品を飾っています。

【校内行事】

文化部発表会や修猷フェストでは、普段とは違って各々が別の花材で生けます。修猷フェストでは、来場者に生け花を体験してもらったり、部員が生けた作品を鑑賞してもらったりします。文化祭では、個人の作品展示だけではなく、来場者の前で実際に大作の花を生ける実演を行っています。花の名称や生け方などを紹介しながら生けるので、毎年好評をいただいでいま

す。また、華道部のOBの方々が来場されることもあり、世代を超えて華道について話すことも楽しみの一つです。

【高校生花いけバトル】

二人一組となり、二分半で交替しつつ、枝ものを使って大きな作品を完成させます。本校は、平成二十九（2017）年の第一回福岡大会で優勝したチームが、香川県で行われた全国大会（栗林公園杯）に出場しました。また、令和三（2021）年の第五回福岡大会では準優勝、次年度の春に岐阜県で行われた第二回全国選抜大会への出場を果たしました。続く令和四（2022）年の第六回福岡大会では一年生のチームが優勝を飾り、香川県で行われた全国大会に出場。見事に準優勝し、農林水産省農業局長賞にも輝きました。また、この成績により、第三回全国選抜大会にも出場しました。

【県庁での展示／福岡フラワーフェア】

令和四年三月には、「ふくおか花のある暮らし2022」の一環として、県庁の展示室で一週間にわたり福岡の花材を使って花を生ける機会をいただきました。地域の方々とは花を通じて交流できる機会となり、花によって人々の心を楽しませることができました。また、毎年一月には天神のソラリアゼファで「福岡フラワーフェア」が行われていますが、二回目の参加と



花いけバトル

なった令和五（2023）年は、一年生全員がオーブニングセレモニーで花を生け、作品を展示しました。観衆を前に大作を生けることの楽しさ、難しさを学びました。

【世界水泳選手権2023福岡大会】

世界中から選手が集まる大会の会場の選手インフォメーションやラウンジ、VIPラウンジに大きな花を生けるという貴重な機会をいただき、三週間にわたって取り組みました。一日おきに会場のマリンメッセまで手入れに通うのは大変でしたが、大変喜ばれ、花を通して広く人々の心を癒すことができました。

【コンサート・歌の花束】

令和五（2023）年八月に、平成二十一年卒のソプラノ歌手、吉田明朱さんのコンサートで、ピアノ演奏に合わせて花を生けました。吉田さんは、プロの音楽家グループ「フォレスト」の一員で、柳川市の観光大使としても活躍されています。会場には、昭和三十四年卒華道部OBの方々も応援に駆けつけてくださいました。皆さん、在学中から華道を楽しみ、卒業後も華道が続けておられたそうです。

私たち華道部は、華道千家古儀の生け花を学び、花生けパフォーマンスも一つの学びの機会として活動してきました。代々の先輩方のように、これからも楽しみながら華道を学び続けたいと思います。

また、何人もの先輩方が花器や華道具を寄贈してくださいました。この場をお借りして心から御礼を申し上げます。

花盛り同窓会

同窓会総会報告

「六光星（ほし）に願いを、みんなに笑みを。」



平成6年卒 六星会
実行委員長

入江 耕 平

（平成6年卒）

令和5年度修猷館同窓会総会の幹事学年を務めさせて頂きました六星会の実行委員長、入江耕平です。5月26日（金）ホテルニューオータニ博多様にて、令和元年以来の通常開催ができたことに、関係者の皆様に対しますもって感謝申し上げます。私たち六星会はこの機会に生涯得がたい貴重な経験をさせて頂きました。大変なこともありましたが、やり遂げてみればやはり楽しかったというほかありません。

令和2年度に中止となり、令和3年度は完全オンライン形式での開催、そして昨年の令和4年度は3年ぶりの対面形式でしたが規模を縮小しての開催となったため、私たちには何としても制限なしの開催が期待されていました。コロナ禍という自力ではどうにもならないファクターがあつたものの、先輩諸氏が

これまで築き上げてきた伝統を後世に繋ぐという使命感を感じながら着々と準備を進めてきました。その成果を5月26日、館友の皆様と一緒に味わうことができた時、すべての努力が報われたと安堵すると同時に、これで終わりなのかという運動会後に似た一抹の寂しさも感じている自分がいました。

この同窓会幹事学年というのは本来2学年先輩から引継ぎを受けるという習わしがあるのですが（1学年上は翌年の準備で大忙しのため2年程前から引継いで準備する必要がある）、2年前はオンライン開催で実施内容が全く異なるため十分にできず、そもそも今後も同窓会を継続できるのだろうかという不安の中で、本番の1年ちよつと前によく実行委員会メンバーが固まるという状況でした。これには歴代実行委員長の先輩方から心配と懸念の声を頂いてしまい、何と4学年上の卒猷会実行委員長をされた三戸宗一郎先輩から直接指南を授けてもらうことになりました。実は私と三戸先輩とは同じ山岳部出身で、私の兄智仁とも同級生且つ親友であり、1学年下の弟信吾も含めて入江家は非常にお世話になっています。三戸先輩からの熱く厳しい叱咤激励と詳細な運営方法の伝授、G.O猷会の岩永実行委員長始め歴代実行委員の皆様からの温かいご支援のお陰で私たちは良いスタートを切れたのだと思います。

ところで今回の同窓会テーマ「六光星（ほし）に願いを、みんなに笑みを。」について皆様はどのように感じられたでしょうか？ 全国で緊急事態宣言が発出されていた頃に、10000人規模の同窓会を再開できる日が来ると明確にイメージできた

方がどれくらいいたのか分かりません。実は私自身、恥ずかしながら同窓会総会にこれまで参加したことがなかったためイメージできるわけもなく、どこか遠い国の出来事のような途方もない話だと最初は感じていました。しかしながら諸先輩からの経験談を聞いたり、過去のDVDを視聴したりする中で、どれだけ多くの館友の皆様が同窓会を心待ちにしているかに思い至り、もう一度皆が笑顔で語り合える場を提供できると強く信じ、願いつつと考え、六星会のテーマとした次第です。何より勇気ももらえたのが、津田会長が同窓会役員会で泰然と一言、「来年は盛大にやるから頼んだぞ！」と言われたことです。自然と自信とやる気が満ちてくるのを感じました。

その後私たち六星会は同志を集め、役割を分担し、テーマに沿ったグッズ製作から始め、懇親会企画案を練るなどの活動を進めました。本当は5月27日(土)開催としたのですが、大安吉日とあって会場を確保できず、やむなく26日(金)としました。平日お勤めの方にとっては参加しにくい日程となりました点は申し訳なく思っております。また物価高騰の折、会場費用が値上がりしており、チケット代を値上げせざるを得なかった点も、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

私が一番に残っているのは支部総会や学年同窓会等へのキャラバン隊活動です。先輩方は温かく迎えて頂き、多くの激励の言葉をかけてくださいました。グッズもたくさん購入して頂きました。チケット購入や広告協賛へのご支援の場面でもそうでしたが、修猷館という絆を強く心に刻む機会でありました。

そうして迎えた同窓会本番、900名以上の館友が集いました。日中は修猷館高校でキャリアセミナーを開催しており、その熱も冷めやらぬまま六星会は会場に駆けつけました。総会を厳粛に執り行い、続く懇親会は鏡割りで幕を開け、映像企画を中心に、今の修猷生や各界で活躍する卒業生、修猷生が集う店の紹介をしました。この「集う店」を冊子にしてお土産として配布したところ、これを見て後日実際に来店された方も多くおられたと聞き、嬉しく思いました。翌々日のOBゴルフ大会も多くの参加者を得てつつがなく終えることができました。

最後になりますが、津田会長をはじめ同窓会役員の皆様、中神館長をはじめ学校関係の皆様には大変お世話になりました。そして、ほぼすべての支部総会に出席された岡本前館長、昨年同窓会幹事長をご退任された大賀前幹事長、密に情報交換して下さった中本事務局長にはひとかたならぬご支援とご指導を頂戴しました。来年は更に良いものにすべく、七猷会の皆さんがすでに準備を進めていますので、是非来年も皆様と会場でお会いできることを楽しみにしています。この度は誠にありがとうございました。

東京修猷会総会報告



実行委員長

大場 さおり

平八会（平成8年卒）

「同じ窓辺でまた会いましょう。」

コロナの影響でリアルで開催ができない時期を経て、令和5年度東京修猷会総会は6月9日（金）に、3年ぶりの懇親会を含めたフルで開催し、多くの方にご参加いただき、盛況のうちは無事終了しました。

「集う」「つなぐ」をテーマに開催した令和5年東京修猷会総会。振り返ってみると、小ささまざまな乗り越えなければならぬ課題が沢山ありましたが、同級生、先輩方、また後輩の皆様にご相談・協力いただきながら一緒に乗り越えた貴重な時間でした。

第一部「総会」

東京修猷会伊藤哲朗会長、修猷館同窓会津田純嗣会長、中神智文館長からご挨拶をいただき、原沢由美幹事長より報告等が行われました。

第二部「恩師紹介」

「恩師紹介・挨拶」では田原秀則先生（英語）、中嶋利昭先生

（数学）にご登壇いただき、「平八卒の思い出として、最初とも心配になるけれど、最後には帳尻が合う」エピソードなどをお話いただき、とても懐かく感じるひと時でした。

第三部「懇親会」

3年ぶりの懇親会。

例年とは異なるレストランでの開催だったため、同じ学年や近い学年の方々と交流しやすいように会場レイアウトを工夫しました。

東京修猷会等健次副会長の乾杯のご発声によりスタートし、「アルバム・丸窓・窓辺の向こうに見える高校の思い出は？」や「クイズ大会・修猷愛」の2つの学年企画を皆様に楽しんでいただきました。

高校当時の懐かしい写真などを沢山皆さまに提供いただき、思い出話に花が咲いたように見えました。

修猷愛を競うクイズ大会では、速さと正解率がリアルタイムで分かる仕組みでしたので、大いに盛り上がりました。

直接会ってお酒を酌み交わす喜びを味わいながら、多くの方が楽しそうに歓談されておられました。

会場でお会いした方々に、「同級生と会えて楽しかった。ありがとう」という言葉をかけていただき、久しぶりのリアルでの開催ができて本当に良かったと思います。

コロナにより社会情勢が変わり、オンラインという新たなコミュニケーションが文化となりました。

オンラインでのつながりは、同級生との打ち合わせはやりや



すくなく、当日会場参加が難しい方々の集いへの参加のハードルを下げてくれた反面、人員削減や物価の高騰など、開催場所や会費に関する問題が発生し、総会の検討は例年とは異なるものでした。

「総会当日の締めめの挨拶の時にやりきって後悔なし、と思えるように楽しんでね」という言葉をかけていただいたことがあります。準備の途中においては、周りの方々にご心配をおかけしたことも多々ありましたが、平八会の才能と個性を発揮し、直接「集う」総会をやり遂げたことを誇りに思います。

我々修猷生は歴史と伝統を大切にしながら変わること恐れず、臨機応変にかつ結果を出す人達です。九猷会の皆さまがそのパワーを存分に発揮できるよう次の世代にバトンを「つなぐ」ために、平八会一同全力でサポートしたいと思っています。

東京修猷会執行部の皆さま、福岡をはじめとする全国同窓会の皆さま、全員野球で乗り越えた平八会の仲間、そのご家族、また応援やサポートなど心を寄せてくださったつ館友の皆さま。多くの方々を支えていただき、総会が盛大に開催できたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



『彼の群小』を熱唱―近畿修猷会総会報告―



年度世話人 朋猷会

内藤 純也

(平成4年卒)

令和5年11月11日土曜日、大阪難波の「ホテルモントレグラ スミア大阪」21階スノーベリーにて第48回近畿修猷会総会を開催し、総勢167名の館友にご参加いただきました。昨年まで会場として長く利用してきた「ヴィアール大阪」の営業終了に伴い、新たな会場で、コロナからの完全復活を印象付けるリアル形式のみでの開催となりました。

今回の総会・懇親会には、ご多忙にもかかわらず、修猷館高等学校の中神智文館長、修猷館同窓会の津田純嗣会長（S44卒）、上田英友幹事長（S55卒）、東京修猷会の原沢由美幹事長（S58卒）、中京修猷会の川野靖史幹事長（S54卒）、関西福中・福高同窓会の上林久美子副会長にお越しいただきました。心より感謝申し上げます。

総会は、物故者黙祷のあと、館歌斉唱から始まる近畿ならではのスタイルで、大竹代表世話人（S51卒）の挨拶、来賓紹介とつづき、中神館長と津田会長から来賓代表挨拶をいただきました。議事では、大竹代表世話人が2年の任期を終えられ、次

期代表世話人に遠座俊明先輩（S52卒）が就任することが決議されました。大竹先輩、大変お疲れ様でした。議事のあとにはS47卒の先輩方の古希のお祝いをしました。皆さま、おめでとうございます。また、その後、特別講演として、我々、幹事学年朋猷会（H4卒）を代表し、エンゲート株式会社（<https://engage.jp/welcome/>）代表取締役社長の城戸幸一郎君より「エンゲート社が繋ぐファンと選手のエンゲージメントとは？」という内容で特別講演を行い、スポーツ振興と新たなスポンサーシップの形をビジネスとすべく奮闘する事業内容を、熱く紹介しました。また、城戸君は三代続く修猷卒の家系ということで、お父様の同級生の方の出席もあり、改めて館友のつながりを素晴らしく感じました。

懇親会は、原沢幹事長と関西福中・福高同窓会上林副会長にご挨拶をいただき、乾杯の音頭は、松村泰夫先輩（S32卒）にとつていただきました。乾杯後の歓談中には、中神館長より、昨年の運動会の様子をまとめた映像を急遽ご提供いただき、人工芝グラウンドでの新しい運動会の雰囲気をご喜んで共有することができました。その後は、毎年の近畿修猷会総会でのピアノ演奏が恒例となっていた辰巳秀一先輩（S17卒）が令和5年2月に亡くなられたことを偲び、追悼映像の上映と「音楽を楽しむ会」の皆さまによるコーラス演奏が行われました。永野洋先輩（S36卒）によるフルートでの伴奏も素晴らしかったです。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

近畿修猷会では、クラブ活動が盛んで10を超えるクラブが活

発に活動しています。「音楽を楽しむ会」、「爽筑会（ハイキング）」、「円猷会（囲碁）」、「猷遊会（ゴルフ）」、「アートクラブ」、「釣りクラブ」、「詩吟クラブ」、「与華燈会（なんでもクラブ）」、「ランニングサークル」、「でじたるしつとう会（IT普及活動）」、「爆猷疾走会（ツリーニング）」から各クラブの活動報告が行われました。中でも「爆猷疾走会」から、モンゴルラリーに参戦し、見事完走された児玉啓先輩（H2卒）がラリースーツで登場し、大いに盛り上がりました。

クラブ活動紹介の後は、七猷会（H7卒）17名が壇上に上がり、来年度の福岡同窓会総会の紹介を元氣一杯行いました。そして、朋猷会からGO猷会（H5卒）へ近畿修猷会の年度幹事引継式を行い、私からGO猷会の近畿代表である野口順平さんに旗を渡し、幹事学年をバトンタッチしました。GO猷会の皆さんも積極的で、来年度の活動を盛り上げてくれると思います。いよいよ会も閉会に近づき、我が朋猷会応援部OBの松川伸一君のリードによって、全員で『彼の群小』を熱唱、コロナ禍の黙唱で溜まった鬱憤を晴らすかのような庄巻の大合唱となり、続くエールで感動のうちにお開きとなりました。

我々朋猷会は、2018年に東京修猷会総会の幹事学年を務め、その後コロナ禍に突入しました。2020年の福岡総会は完全リモート開催となり、実行委員会後の懇親会や終了後の打ち上げもできない中で、幹事学年でした。そして、今回の近畿修猷会で東京、福岡、近畿の幹事を完遂しました。ご指導いただいた各支部同窓会役員、世話役の皆さま、諸先輩方、ご協力

いただいた皆さま、ありがとうございました。

今回の総会には、近畿メンバーを含め、朋猷会同期34名が集まりました。東京、福岡など遠方から参加、協力してくれた皆さん、本当にありがとうございました。皆さんのおかげで無事最後の幹事学年を務めることができました。また、皆さんと集える日を楽しみに日々精進していきたいと思えます。今後も後輩たちを支えながら近畿修猷会を盛り上げていきたいと思えますので、引き続き近畿修猷会へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



く支部だよりく

東京修猷会

今年も二木会にご紹介いたします。毎月第二木曜日に修猷の卒業生を講師に迎えて開催し、今年で680回を迎えます。終了後の懇親会も復活しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

昨年の講演内容は次のとおりです。(肩書、所属は講演時のもの)

- 1月「2023年の日本経済・金融情勢の見通し」くキーワードは「出口」く」
昭和60年卒 左三川郁子さん(公益社団法人 日本経済研究センター金融研究室長兼 主任研究員)
2月「スポーツドクターのやりがいと現在地」く点がつながり豊かな「猷」になるく」
平成4年卒 服部惣一さん(亀田メデイカルセンター スポーツ医学科部長代理 日本体育協会公認スポーツドクター)
3月「早く顔が見たい!」くポストコロナ時代の顔認識と大学運営く」
平成2年卒 蒲池みゆきさん(工学院大学副学長)

4月「国際化社会をどう生き残るか」く修猷館卒業生の特性を踏まえてく」

昭和36年卒 久保田勇夫さん(株式会社西日本フィナンシャルホールディングス会長)

5月「一歩間違えれば死んでいた」く報道現場でみた現実とメディアの未来く」

昭和59年卒 松岡烈さん(NHK首都圏局長)

6月 ※東京修猷会総会を開催
7月「脳卒中制圧への道」く臨床医と武道の二刀流で目指す医学の確立く」

平成7年卒 吉村壮平さん(国立循環器病研究センター脳血管内科 医長)

9月 サロン・ド・修猷「Shall we JAZZ?」く現役ミュージシャンに学ぶジャズ講座&生演奏く」

※土曜午後に家族や友人も参加できる会として開催
10月「ソニー復活に向けて歩んできたこの10年」

昭和56年卒 河野弘さん(ソニー株式会社常務)

11月「指揮官の心得と責務」くイラク復興支援、東日本震災からの教訓く」
昭和51年卒 立花尊顯さん(元陸将補 日本地雷処理を支援する会理事)

12月 ※忘年懇親会として開催

副幹事長 高木 信明(昭和60年卒)

近畿修猷会

近畿修猷会では、例年行っている新年会、春・秋のイベント、ゴルフコンペ、総会を昨年度から感染対策のもとで再開し、今年度は、完全にコロナ前に戻した形で実施しました。

春イベントでは、琵琶湖でミシガンクルーズを満喫した後、びわ湖大津プリンスホテルの37Fレストランで琵琶湖の雄大な景色を眺めながらのブツフェ、秋のイベントでは、京都のよしもと祇園花月にて漫才と新喜劇で爆笑し、創業百余年の老舗「鳥久」にて彩りあざやかな京御膳とともに宴会を楽しみました。ゴルフコンペでは、福岡の朋猷会メンバーも駆けつけ、皆さんおおいにハッスルされました。また、各イベントで恒例の館歌斉唱も黙唱ではなく、斉唱が復活しました。

毎年度2回発行している新聞では、春は柔道日本一となった修猷館柔道部の姥琳子さん（インタビュ当時、高校3年生）、秋は修猷館ラグビー部OBで日本代表、ワールドカップ出場を果たした下川甲嗣さんの特集記事を掲載することができ、タイムリーに館友の活躍をお伝え出来たと思います。

総会も総勢167名で盛大に開催することができました（総会については別途、総会報告にてお知らせいたします）。この1年間、年度世話人代表として、世話人をはじめとする近畿修猷会の先輩方に支えられて、無事活動を終えることができました。心より感謝申し上げます。

朋猷会 内藤 純也（平成4年卒）

中京修猷会

平成5年は新型コロナウイルスが感染法上5類に移行したため自由な活動ができる環境となり、中京修猷会も待望の制限なしでの活動を行うことができました。

6月3日、来賓含め44名の参加を得て総会を開催しました。最初に弓場さつきさん（H22年卒）によるオカリナコンサートを鑑賞、澄んだ音色に参加者一同感動。総会議事では会報「猷交」の新編集体制の紹介、アフターコロナ活動方針の説明を行いました。2年前から「猷交」を送付している近隣地域（静岡）からも3名初参加いただきました。

7月9日、大河ドラマ「どうする家康」のお膝元岡崎城、大河ドラマ館を訪問、名物の八丁味噌田楽やみそカツを堪能しました。

11月25日、忘年会を開催33名が参加。坂川亨さん（S53年卒）による講演に続き和氣藹々とした懇親会で年の締めくくりを行いました。坂川さんは三菱重工で航空機の設計開発に従事、航空機の構造から国際開発まで興味深い話を聞かせていただきました。

新型コロナウイルス禍の下、「猷交」送付地域拡大や紙上忘年会等工夫しながら活動を続けてきましたが、近隣地域からの総会初参加や課題であった若手参加の増加等徐々に変化が表れつつあります。今後も中京地区の特色を生かしつつ、多数の館友に参加し楽しんでいただけるような会にしたいと思います。ご支援・

ご指導よろしくお願い申し上げます。

幹事長 川野 靖史（昭和54年卒）

沖繩修猷会

第19回沖繩修猷会総会・懇親会を令和5年11月18日に那覇市にて開催いたしました。これまで通り、県内在住会員に加えて多くの県外会員の御参加をいただきました。同窓会本部からは、上田英友常任幹事長（昭和55年卒）、修猷館高校からは、井地誠教頭の御参加をいただきました。翌19日より、史上2回目となる修猷館高校の沖繩研修旅行が始まる旨のご紹介がありました。同窓会総会幹事学年の七猷会（平成7年卒）からは、実行委員長の高賀祐介氏を始め、キャラバン隊の池下智氏、中嶋裕樹氏、勢島仁美氏、三宅真紀子氏も御参加いただき、会を大いに盛り上げて頂きました。総会では、新会長に國吉妙子氏（昭和44年卒）および副会長に新藤直人氏（昭和60年卒）が選出されました。沖繩修猷会では初の女性会長となります。御陰様で、小人数ながら暖かい南の島で熱い館友交流を持つことができました。沖繩在住・非在住に関わりなく、「緩い」沖繩修猷会に御興味のある方、11月に沖繩旅行をご計画の方々は、是非ともご一報をください。一見さんも歓迎いたします。

山崎 秀雄（昭和55年卒）

中国四国修猷会

中国四国修猷会です。2023年度の活動報告です。

2023年6月24日（土）、津田会長・上田常任幹事長・中神館長のご臨席を仰ぎ、4年ぶりに開催された中国四国修猷会第四回総会が大きな盛り上がりの中に終了しました。参加者は4年ぶりに館歌を大声でオラビ、至福の時間を過ごすことができました!!

未だコロナにより大規模宴会の自粛を社員に求めている企業もあり、今年度参加者は40名と、60名を数えた前回・前々回に比してやや寂しいものにはなりましたが、逆にお互いがじっくり語り合うことができているように思えます。

課題としては、広島大学を中心とした現役大学生の参加が無かったことで、来年度は進学が決まった段階でのアプローチも検討したいと思っています。

来年度は以下の要領で第5回中国四国修猷会総会を開催します。

日時…2024年6月29日（土） 17時30分～20時

場所…オリエンタルホテル広島

エリア外の方の参加も大歓迎です。

河野 浩（昭和46年卒）

東北修猷会

2023年11月25日、東北修猷会総会を開催いたしました。中神智文館長先生、同窓会本部から上田英友常任幹事長様、七猷会のキャラバン隊、東京修猷会、昭和38年卒〜令和3年卒の同窓生、22名にご参加いただきました。また4年ぶりに参加者全員で館歌を歌うことができました。今回初参加の方も多く、学生さんにもご参加いただけました。

来年度の日程は決まりましたらHPとFacebookでお知らせいたします。東北在住の方に限らず、たまたまその日は仙台におるよ、東北修猷会に参加してみようという方も歓迎です。今後ともよろしくお願いいたします。

工藤 砂織（昭和56年卒）

長崎修猷会

長崎修猷会は、第48回総会を、ご来賓の中神智文館長、上田英友常任幹事長（S55年卒）、令和6年度同窓会総会幹事「七猷会」の皆さんを含む総勢28名、12月9日（土）午後4時から「長崎サンプリエール」にて開催しました。

鶴田修副会長（S44年卒）の開会挨拶の後、恒例に従い卓話を実施。講師は、幹事の真島絹子（S60年卒）さんが昨年5月

の総会二次会で同席した縁でご依頼した、国立障碍者リハビリテーション病院第二診療部長で眼科専門医 清水朋美医学博士（S60年卒）。

演題は、『知っていますか？〜見えにくい人たちのこと〜』何らかの原因により視覚に障害を受け「見えにくい」「まぶしい」「見える範囲が狭くて歩きにくい」など日常生活での不自由さをきたしている状態「ロービジョン」について、具体的な見え方や周囲の誤解、接し方のあるべき姿などを講話頂きました。埼玉と結んでの初のWeb開催でしたが、参加者から多くの質問もあり、一同興味深い卓話となりました。

その後、中牟田真一会長（S41年卒）、中神館長、上田幹事長からご挨拶と母校の近況報告、大熊稔幸幹事長（S50年卒）の経過報告の後、参加者全員で記念撮影。

総会後半の懇親会は、中牟田会長に乾杯のご発声を頂き、七猷会の皆さんから令和6年度総会のご案内と記念グッズのご紹介、恒例の福引抽選会を実施。

最後は、今回もご参加頂いた最年長（年齢は恥ずかしいので、とチャイミング！）西醇夫さん（S22年卒）にご登壇頂き「玄南の海」に始まり、矢野右人さん（S30年卒）にもご登壇頂いて全員で館歌斉唱、矢野さんの音頭で万歳三唱、鶴田副会長の開会挨拶で、盛会のうちにお開きとなりました。

新卒の3名の参加もあり、幅広く交流して盛り上げて参ります。

宮下 武彦（昭和60年卒）
立石 修（昭和62年卒）

宮崎修猷会

令和4年度の年次総会および懇親会は令和5年1月28日(土)に開催されました。新型コロナウイルス感染症が収束へと向かい、令和になって最初の開催となりました。来賓として、修猷館高等学校を代表して岡本館長、同窓会本部より大賀幹事長のご臨席を賜りました。また、令和5年度修猷館同窓会総会の幹事学年である「六星会」から2名のご参加をいただきました。

総会における活動報告に引き続き懇親会では、来賓の皆様にご挨拶をいただき、現役館友達の活躍や、同窓会の近況をお聴かせいただきました。会の中程では、「六星会」のみなさまから令和5年度同窓会総会の開催案内をしていただきました。その後も和気藹々と懇親会は進行し、館歌斉唱をもって楽しい会も閉会となりました。開催の決定が遅くなったこともあり、残念ながら参加人数は少なかったのですが、今年度は早めに準備を整えて多くの館友に参加していただけるように努めたいと思います。

宮崎修猷会は小規模な会ですが、アットホームな雰囲気集まりです。宮崎へ転入される館友の方は、是非、宮崎修猷会へご参加ください。お待ち申し上げております。

文責・事務長 光田 靖 (平成5年卒)

佐賀修猷会

7月10日月曜日に、4年ぶりの佐賀修猷会総会が開催できました。

前日からの台風近接に伴い、当日の10日も大雨が残り、開催が心配されましたが、福岡からも神智文館長先生、上田英友常任幹事長さんにも足元が悪いなかご参加いただき、佐賀修猷会の仲間も久しぶりの総会ということで、先輩方から現役の佐賀大学生の諸君など多士済々のメンバーが30人ほど参加してください、賑やかに和やかに開催することができました。例年の半数程度の出席でしたが、やはりリアルの同窓会は華やいていて、楽しいひと時を味わうことができましたね。館長先生には、現在の修猷生の勉学に加えて、スポーツにまで大活躍だと嬉しいご報告をいただき、一同感動させていただきました。修猷館に栄光あれと、今一度心に刻みました。

尚、佐賀ハイマツト理事長の中川原章先生(S41年卒)が長年の小児がんの治療と研究によってオーストリア アルベルト・シュバイツァー章を昨年受章なさいました。会員一同の誇りです。

会長 駒井 英基 (昭和49年卒)

大分修猷会

令和5年2月18日別府市ホテルニューツルタにて総会を3年ぶりに開催しました。

岡本圭吾館長、津田純嗣同窓会会長、大賀啓史同窓会常任幹事長を来賓に迎え、福岡から豊前市市長後藤元秀さん（昭和44卒）、館長の親友生越丈夫さん（昭和56卒）、六星会の4名を迎えて18名で執り行いました。

まず、令和2年に修猷館の修学旅行を大分で受け入れた報告です。研修では9つの班の内2つを大分修猷会の会員が担当しました。大病院で実践的な研修に取り組んだりドクターヘリの出動を見たり、大分市と由布市で建築に対する深みのある解説を聞いたりしてもらいました。

来賓の皆さまから母校の生徒の活躍や同窓会の運営の状況を伺う時間は、一同聴き入ってしまいます。六星会のキャラバン隊からは、同窓会総会の案内と記念グッズの販売を行ってもらいました。若い人から始まる自己紹介と近況報告は各自に色々な変化があり、久しぶりの開催を実感しました。最後の館歌斉唱では、初参加の長谷川航さん（平成6年卒）の音頭で声高らかに締めくくりました。

大分修猷会はアットホームな集まりなので初めての参加でも楽しく過ごせます。

次回の大分修猷会総会は2024年2月17日、大分センチュ

リーホテルにて開催します。

大分県内に住んでいて大分修猷会の案内が届かない方はご連絡宜しくお願い致します。

幹事 布村 知丈（平成元年卒）

鹿児島修猷会

鹿児島修猷会は毎年二月の第一土曜日に総会と懇親会を開催していますが、令和三・四・五年の二月は中止となり、近況をご報告できないことをお詫びいたします。

令和五年度に鹿児島県では第75回特別国民体育大会と特別全国障害者スポーツ大会が開催され、天皇皇后両陛下をはじめ県外から選手団だけでも三万人以上、観客を含めると八十万人が会場を訪れました。私は平成二年から鹿児島市に居住し、当時の鹿児島本線の終着駅はほぼ平屋の駅舎の「西鹿児島駅」で、その周辺で宴会をとすることはなく、もっぱら天文館界隈でという時代でした。二〇〇四年の九州新幹線一部開業により「鹿児島中央駅」へと駅名が変更され、二〇一一年の全線開業からは駅ビルの再開発、駅の東口・西口周辺には複合商業施設、オフィスビル、ホテル、グルメ飲食店、マンション等が立ち並び、今や鹿児島市の中心地区となっています。多くの来訪者を十分に許容できるほどに鹿児島市は発展を遂げ、新幹線効果は福岡・

博多だけではないことを実感しています。なお、桜島は休むことなく噴火してはいますが、風向きの関係から火山灰清掃車両である黄色のロードスイーパーを鹿児島市内で目にすることはまれになっています。

令和五年度の総会と懇親会は令和六年二月三日（土）に開催いたします。転勤や在学等で鹿児島にお住まいの際にはお気軽にご相談をお願いします。

三好 宣彰（昭和55年卒）



中京修猷会



沖縄修猷会



東北修猷会



佐賀修猷会



長崎修猷会



大分修猷会

〳周年行事〵

東京修猷三五会傘寿記念同窓会開催

東京修猷三五会幹事

白木 大五郎

(昭和35年卒)

コロナで延び延びになっていた傘寿記念同窓会を、コロナの5類指定の日、五月八日に開催いたしました。心配したお天気も幸い曇りのち晴れとなり幹事としては一安心。

開催場所は、東京柴又。寅さんゆかりのお寺である「帝釈天巡り」と「寅さんミュージアム」、「山田洋二監督記念館」、名所の「矢切の渡し」等をご案内の後、料亭「川千屋」にて柴又名物、鰻かば焼き定食で懇談会。総勢29名の参加で大いに盛り上がりました。各自よりの近況報告に続いて、小生より、修猷の大先輩、「福岡の偉人」明石元二郎の生涯と顕彰碑建立」の講話とDVDの上映を行いました。最後に館歌を全員で斉唱してお開きとなりました。今回の同窓会は、小生と谷本重治さんが担当。本日は朝から大忙しでしたが、皆様に大変喜んで頂きホッとした次第です。同窓会の後、三嶋睦夫さんの発案で、「傘寿記念同窓会和歌・川柳・俳句」を皆さんから募集いたしました。皆さんの名(迷)作品の数々を御紹介させて頂きますのでご笑覧ください。(順不同です)

〈和歌〉

・「八十路過ぎ　これが最後の同期会

　　と言いながら　十年頑張る」

・「八十路過ぎ　柴又に集う傘寿の同期会

　　寅さんさくらと　つむぐ来し方」

・「柴又で　傘寿を祝う同期会　まだまだ青いと　瑞龍の松」

・「八十路越え　逝き仲間の数知れず

　　江戸川の空　思い果てなし」

・「柴又に　寅さん想い集う顔　長き道のり　しわを刻みて」

・「コロナ越え　残る一つはウクライナ

　　帝釈天に　祈りを込めて」

〈俳句・川柳〉

・「傘寿会　コロナで2年　待ちぼうけ」

・「寅さんを　訪ねて八十路の　同窓会」

・「芝又の　土産に名物　草団子」

・「寅さんの　出迎え受けて　同窓会」

・「コロナ明け　笑顔飛び交う　同窓会」

・「傘寿過ぎ　集える健児　30人」

・「薫風と　柴又闊歩　六光星」

・「柴又の　倍賞桜も　同じ齢」

・「雨上がり　寅さん偲び　帝釈天」

・「江戸川の　緑の流れ　矢切の渡し」

・「鐘の音も　デジタルで突く　門前町」

・「柴又に　集える館友　老いても澁刺」

- ・「柴又に 集えばみんな 寅になり」
- ・「館友の 集い来たりて ウナギ食う」
- ・「八十路過ぐ 集う館友 三十人か」
- ・「クラス会 さくら待ってる 寅さんと」

・「五年ぶり 矢切の渡し 五月晴れ」

・「緑雨やみ 矢切の渡し 動きあり」

・「卒寿祝う 寅さんの道 夏に入る」

・「柴又は ウナギも旨し 昭和の味」

・「若葉萌え 寅さん偲ぶ 草団子」

・「帝釈堂 彫刻の寺 薄暮光」



修猷さんぱち会「卒業六十周年記念同窓会」



宮 本 正 邦

(昭和38年卒)

私たち昭和三十八年卒業の「修猷さんぱち会」は今まで五年ごとに福岡本部、関東、関西、中京の各支部担当で「記念同窓会」を開催しています。今年度は福岡本部担当で令和5年5月25日、26日に「卒業六十周年記念同窓会」を開催しました。当初は母校を中心に記念式典を開催し、夕方から市内のホテルで「大懇親会」をして遠方からの参加者は市内のホテルに宿泊してもらい、翌日福岡周辺の観光に出かけることを考えました。しかし八十歳を目前にした我々の大半は現役を卒業した年金生活者が多く「できるだけ費用を安く抑える、しかし内容は盛りだくさんにする」ということを目的として、約一年前に結成した「準備委員会」で色々な案を検討し下見に出かけました。当初は太宰府を中心とし、令和の元となった「坂本神社」をはじめ「大宰府政庁跡と太宰府天満宮」そして「万葉歌碑巡りと国立博物館」など観光コースには事欠きません。太宰府周辺は私たちが「今を愉しむ会」を作り福岡在住のメンバーとたびたび出かけています。又「壱岐の島めぐり」も素晴らしい。そこで準備委員で

沓岐の島にも出かけました。島には素晴らしいところがたくさんあってよかったです。往復の船旅は穏やかな日和にもかかわらず船酔いをする人が出て、楽しい船旅のはずがそうでもないので断念しました。

結果として福岡市の東、岡垣町の「ぶどうの樹・八幡屋旅館」を主たる会場とすることに決めました。「ぶどうの樹・グラノ24K」はバス会社も経営しておられ、割安で貸し切りバスが利用できます。後は周辺の観光場所の選定でした。福岡市の東には「宮地嶽神社」「宗像大社」「鎮国寺」「日清日露戦争記念碑及び東郷神社」「新原・奴山をはじめとする数多くの古墳群」など名所旧跡が多数あり観光に事欠きません。何処でどうするかを計画し、何度も何度も訪問しました。合計十回近く行きました。行くところ行くところ準備委員からは驚きと感嘆の声がひっきりなしに出ます。どこにするか迷いに迷いました。「鎮国寺」は特に素晴らしかったのですが、小高い丘の上のみにあり、しかも大型バスで上ることができません。メンバーの年齢を考えると歩いて登らせるわけにもいかず計画から外しました。結果として本番当日の参加者からは行ったところはどこも素晴らしいとの感想が多数出ましたので大成功だと思えます。

当日は遠方から参加する人のためにお昼までに博多駅に集合、午後から貸し切りバスで出発しました。そこで午前中のイベントとして二つのコースを準備しました。一つは前回五十周年同窓会の時とは大きく変化した母校の運動場が人工芝になったことがありますので「母校見学会」です。当日は安武副校長に

案内していただきました。ありがとうございます。もう一つは「天神ビッグバンと呼ばれる都心の変化をオープントップバスでの見学会」。大きく変貌を遂げる都心の様子をオープントップバスの上から堪能してもらいました。当日は天気も良く参加者は大喜びでした。

今回の参加者は合計七十六名です。卒業以来ずいぶん年月が経ち顔も年輪を刻んでいます。久しぶりに会う人にもよくわかるように「卒業記念アルバムの昔の顔を載せた名前カード」を首からぶら下げてもらいます。大半の人たちが「君があのお〇〇君? びっくりしたー」とか、「ちっとも変わつたらんね、すぐわかったよ」とかにぎやかなものです。午後昼過ぎ博多駅を出発して「宗像大社」に行きメンバーを数グループに分けて、地元のガイドさん数名にお願いしてきめ細かい説明を堪能しました。そして「ぶどうの樹」です。ここで記念式典をやり、参加者全員で前回から亡くなった旧友の冥福を心から祈るとともにこうして元気に参加できたことへの感謝を込めました。参加者全員の記念写真は通常のひな壇横並びで映すスタイルをやめ全員が見上げる形で高い位置から写しました。最後に載せていきます。

次はぶどう棚の下の大宴会です。場所を移動しての二次会、さらに宿泊場所の旅館に移動しての三次会を夜遅くまで心から堪能しました。全員八十歳を目の前にしたとは思えない元気よさです。

翌日、ゴルフ組は早朝より「西戸崎シーサイドカントリー」

に向かいプレーを楽しみました。観光組は朝食を済ませ観光に向かいます。まず、すぐ近くの「成田山不動寺」に行き、真下に見える「ぶどうの樹」とはるかかなたの響灘に感激し、さらに渡りをする蝶々「アサギマダラ」に会いました。ここは中継地として有名なところだそうです。大感激です。つぎに「道の駅むなかた」で買い物を楽しみます。午前中最後の観光として「新原・奴山古墳群」を訪ねた後、昼食会場の「波の上のテラス マル・マール」で素晴らしい昼食とワインを楽しみました。午後からは「宮地嶽神社」に行きました。ここで日本一の「大しめ縄」「大鈴」「大太鼓」を見学しました。

时期的に無理ですが、「嵐のテレビCM」で有名になった参道を階段の上から眺め夕陽が沈んでいく様を想像してもらいました。

さらに神社の裏手にあるたくさんのお宮さんやお寺を巡りました。宮地嶽神社を後にして昨日集合した博多駅に戻ります。

参加した人たちはみんな元気です。元気だから参加できる。元気がなければ参加できません。次は六十五周年でしょうか。

それまで元気で参加できることを約束して散会しました。



時がつながる同窓会

昭和46年卒「よかろう会」52周年同窓会

副 島 広 巳

(昭和46年卒)

昭和46年卒「よかろう会」は令和5年10月15日～16日に卒業52周年の同窓会を開催しました。

私たちのテーマは「時がつながる同窓会」です。私たちは修猷館時代を一緒に過ごし、その後はそれぞれの道を歩んできました。同窓会は一人一人の時の流れが、一瞬にしてつながる場です。このかけがえのない時を私たちだけのためではなく「修猷在校生へのメッセージ文集」を作成し、在校生と共有し時をつなげていくことができないか、そのような想いで今回のよかろう会52周年同窓会を企画しました。

【開催に至るまでの経緯と概要】 この同窓会を開催するにあたっての経緯と概要を簡単にご紹介します。

修猷館の同窓会は節目の年に学年の同窓会を行うことになっていますが、よかろう会の卒業50周年となる令和3年はコロナ禍の中にあり開催を見送らざるを得ませんでした。

ようやく令和4年末頃、メンバーからそろそろ来年あたりでいいからではないかとの話が出てきました。そこで令和5年1月にクラス幹事会を開催し、そこをスタートとし開催に向けた検討を始めました。

この同窓会では2日間にわたり、初日に修猷館高校の学校見学、福岡市内巡り、太宰府のホテルでの懇親会、宿泊、そして2日目はゴルフ、太宰府ツアーと多彩なプログラムを用意することができました。

また在校生へつながる企画として「修猷在校生へのメッセージ文集」をとりまとめました。

【学校見学】

同窓会の幕開きは修猷館高校の学校見学からでした。10月15日よからう会メンバー33名が、電車道側正門（今は電車で代わり地下鉄が走っていますが）に集合し、日曜日にもかかわらずご足労を頂いた渡辺先生、新谷先生のご案内のもと、平成12年ごろに新しくなった校舎を隅々まで見学させていただきました。人工芝グラウンドや校舎に囲まれた中庭の風景に参加者全員が目を奪われていました。

また圧巻は修猷資料館でした。渡辺先生の素晴らしい解説で修猷館の歴史や卒業された方の業績などをつぶさに知ることができました。

【福岡市内巡り】 その日の午後は各々分かれて福岡市内巡りを行いました。西新の「しばらく」のラーメンや、天神の「因幡うどん」の博多うどん、新天町の「ピクトリア」の釜めしで昔話が弾んでいました。また太宰府の九州国立博物館を見学するグループもありました。

【懇親会、宿泊】 今回の同窓会のメインイベントである懇親会は、太宰府市にある「ルートイングランティア太宰府」で行いました。総勢70名が集まり旧交を温めました。

その後、部屋で2次会。差し入れのウイスキーがあつという間に空になりました。宿泊者は27名でした。

【ゴルフ】

ゴルフ組は翌日16日（月）朝早くホテルを出発して小郡カンツリー倶楽部へ向かいました。古希を過ぎると次第にゴルフをする者が減ってきて、今回は3組でのコンペとなりました。なかには懸命にスコアアップを狙う者と、ストレス発散、健康一番の和やか組に分かれるようですが、後者の方が多いなか、秋の青空の下、楽しいプレーでした。

まだまだゴルフ会は続けてゆきます。

【太宰府ツアー】

太宰府ツアーは翌朝、約20名がホテルから歩き組と車組に分かれて太宰府天満宮へ出発しました。

欄宜の松尾さんの説明を受けながら、2時間境内を巡りました。本殿大改修のため仮殿で全員昇殿し正式参拝し、菅公歴史館の観覧などで千百年の歴史を学びました。その後、西高辻家御用達の茶屋「松島茶店」で昼食をとり、和菓子の隠れた名店「藤丸」で、菓子と抹茶をごちそうになりました。



昭和四十七年卒業生 古稀の会

荒木 啓二郎

(昭和47年卒)

我々昭和四十七年卒業生は、二〇二三年度に七十歳を迎えました。数え年とか満年齢とかに拘る人もいたようですが、二〇二三年に古稀の会を開催いたしました。そもその発端は、二〇二二年十月東京での二本会で同級生の西高辻信良君が「天神の杜に生きて」という講演をした後に、それを聴きに行った同級生と一杯やっている時に、古稀の会はせんとやという話が挙がったことによります。還暦の年には、ちようど伊勢神宮の式年遷宮と重なっていたので、西高辻君があれこれ手配をしてくれて、各地から家族なども含めて総勢一五〇名の団体でお伊勢参りを行いました。それから十年になります。

福岡からこの二本会に参加した同級生の話などによると、太宰府天満宮で古稀のお参りをして翌日はゴルフを楽しむという案が独り歩きを始めたようでした。福岡で何度か相談した後、二〇二三年正月の会で、古稀の会を太宰府で開催することを決定しました。

いろいろと検討した結果、太宰府天満宮参拝、記念植樹、宴会、翌日のゴルフと糸島方面バスツアーからなる一連の行事を計画しました。実施体制として、太宰府天満宮や宴会宿泊の大観荘などの連絡調整と参加受付は待鳥真人君、ゴルフは近年

同窓生のゴルフコンペを主宰している江頭裕治君、糸島方面バスツアーは糸島在住の宮本隆良君、実行委員長は前回の還暦お伊勢参りの実行委員長を務めた冬至克也君、などの面々にお願いしました。

まず日程ですが、準備の都合もあるので実施は秋頃としました。梅の植樹は春先が良いということで、三月十日に植樹をし、古稀の会の本番は十月一日に太宰府天満宮で行うことにしました。植樹の際には、東京などからも含めて三十名が参加しました。本殿でお祓いを受け、曲水の宴の会場付近の一番良い場所に植樹させて頂きました「写真1」。九州国立博物館への登り口の向かいになりますので、皆さま、太宰府にお越しの折には、探してみてください。

太宰府天満宮は二二四年ぶりの御本殿の大改修に入るため、植樹の時には改修前の御本殿で参拝をすることができましたが、古稀の会本番では、仮殿での参拝となります。この仮殿は、建築家の藤本壮介氏の設計で約三年間という御本殿の大改修期間に限り御本殿前に建てられています。屋根の上にも木が植えられて、周りの鎮守の杜と一体化した素晴らしい建物です。この時期に古稀の会の健康祈願を仮殿で行うという貴重な経験をさせて頂



写真1 記念植樹 (3月10日)

くことになりました。

古稀の会の計画を具体化し詳細を詰めていくなかで、肝腎要の待鳥君が体調不良となりました。しかしながら、参加受付状況の更新ならびに太宰府天満宮やホテルとの連絡調整等に献身的に働いて古稀の会を成功に導いてくれて、みんなから労いと称賛を受けました。一方、不肖私も会の一カ月あまり前になって俄に足首の痛みと腫れがおきまして歩くのも困難となり一週間以上毎日通院して点滴をうけるといふ窮状に陥りました。長年続く高尿酸血症を気に留めず特に撰生もしてこなかったバチでしょうか。誰も心配も同情もしてくれません。通院と薬のお陰で、なんとか本番までには、ゆっくりと歩くことができるまで改善しました。

さて、十月一日の古稀の会当日は、午前中からお世話係のみんなに太宰府天満宮内の会場に集合してもらい、全体説明や受付準備をして同級生の来場に備えました。年寄りとなつて待ちきれずに、受付開始時間よりも随分早くに会場に来た同級生も多数いました。

太宰府天満宮には、古稀の会対応で、全体の統括、案内役、古稀健康祈願などで多くの神職の方々にお世話になりました。開会の時間になると全体統括の神職の方がスケジュールや四班に分かれて班ごとに神職の方の案内に従って行動することなどご説明くださった後、西高辻君の講話を聴かせてもらいました。記念写真撮影の後、仮殿での祈願と境内見学とを神職の方の案内で行いました。太宰府天満宮に何度も来ていても、宝物殿や菅公歴史館の中に入ることはあまりなく、いわんや神職の方

のご説明付きでゆっくり拝見することはありませんでしたので、直前に聴いた西高辻君の話とも相俟つて太宰府天満宮に関する知識と理解が深まりました。

仮殿での祈願の最中に、私には御神託が聞こえたように感じました。曰く「会わるうちに会つときやい」と。

さあ、あとはいよいよ宴会です。神職の方の案内と班ごとにお願した班長・副班長の引率のお陰で、参拝と境内見学は非常に円滑に進み、かつ、日曜日の夕方で道路が混雑して移動に時間がかかる心配もありましたが、特に大きな渋滞もなく会場のホテルに着きました。早く着きすぎてロビーなどで一時間くらい待つて貰うことになりましたが、みんな久闊を叙し、積もつた話で盛り上がって、いつまで待たせるとや、早く宴会を始めやいというような苦情は出ませんでした。

実行委員長の冬至君の司会進行で宴会が始まりました。お互いにゆっくり話をして貰おうと、出し物は用意していません。ただ、開宴後まもなく酔っ払う前に三年生の時のクラスごとの写真を撮りました。これが引き金となつてクラブごとや一年二年の時、さらには同じ幼稚園に通つた仲間の写真なども撮つて賑やかに楽しく時間は過ぎていきました。

江頭君の音頭による館歌三番とフレーフレー修猷で締め、宴会は目出度くお開きとなりました。館歌も、みんなで歌えば三番までちゃんと歌いきいことが確認できました。

翌日は、太宰府ゴルフ倶楽部でのゴルフコンペと糸島方面バスツアーの二つのオプション行事を行いました。好天にも恵まれて、参加した同級生は大いに楽しんでくれたようです。

今回の参加者は、太宰府天満宮参拝が九六名、宴会が九五名、ゴルフコンペが三十一名、糸島方面バスツアーが二十五名で、少なくともいずれか一つに参加したのは一〇八名でした。十年前の還暦お伊勢参りに参加した同級生が一、二名でしたので、今回の古稀の会にはお伊勢参りの時に匹敵する人数が参加しました。こんなに沢山の参加者があるとは、当初は思ってもおりませんでした。大勢集まって古稀を祝うことができたことを皆で喜びましたが、これほど大きな行事は今回が最後かなとの思いもよぎります。高齢化により、世話する側の体制が整うかどうかもわかりません。はたして次回はあるのか？

本稿の結びにあたり、打合せや各種ご手配、境内でのご案内など何から何まで大変お世話になりました。太宰府天満宮の皆さま、宴会と宿泊に便宜を図って頂いた大観荘様、そして班長・副班長をはじめとするお世話係の皆さまに感謝申し上げます。

みんな、会わるうちに会いましょう！



しゃーない会 古希健康祈願 太宰府天満宮 令和5年10月1日

剛質会（S57卒）還暦記念大同窓会



西岡 修
(昭和57年卒)

『乾杯！』の発声とともに、我ら昭和57年卒（剛質会）193人のグラスが一斉に挙げられた。会場は『グローカーホテル糸島』。同期の坂原祐樹君が設計に参加し、2021年に糸島学研都市に開業した新しいホテルである。

令和5年10月8日（日）から始まった剛質会還暦イベント。まずは82人が修猷館高校に集合し、同期のラグビー部渡辺康宏部長立会いの下、修猷館高校を見学。その後、西新ぶらり散歩を経て2台の大型バスで会場に向かった。

グローカーホテル糸島のロビーでは、大関順子さんが二胡で館歌や玄南の海を奏でる中、海外組含め全国各地から続々と同期が集まり、前田隆君、山裾（旧姓山内）信子さんの司会でメインイベントの一次会がスタートした。恩師の加来野先生（当時3年2組担任）、田浦先生（同3年5組担任）にもお越しいただき、光り輝くシャンパンツリーの周りでは、恩師を囲み、あるいは同期の懐かしい仲間による幾つもの歓談の輪ができた。還暦を記念して、剛質会から母校修猷館高校へ桜の木を寄贈

する案が満場一致で決議され、準備委員会の原口徹君から渡辺康宏先生へ目録が寄贈された後は、お揃いの赤い『修猷魂Tシャツ』を着た『Goshicki Kai 48』による『恋するフォーチュンクッキー』ならぬ『恋するカンレキクッキー』の替え歌と踊りで会場は大いに盛り上がった。

続いて、藤田昌己君ほか陸上部メンバーと佐久間（旧姓松岡）佳枝さんによる恩師への感謝の言葉、そして恩師からのメッセージと準備委員会メンバーによって用意されたプログラムが次々と展開される。恩師の温かいお言葉からは、卒業して40年以上経て尚変わらぬ我々教え子に対する深い愛情を感じ、多くの同期が感涙に浸った。

岡村竜豪君の閉会挨拶に続き、2次会は近接する伊都ダイニングに会場を移動。大型スクリーンに映し出されるラグビーワールドカップ日本対アルゼンチン戦を皆で観戦しながら、宴は夜遅くまで続いた。

2日目は、還暦行軍組とゴルフ組に分かれて、グローカルホテル糸島を出発。実は43年前の十里行軍は糸島半島を踏破するコースだった。今回もその当時を思い出し、昔話に花を咲かせつつ二見ヶ浦周辺を0.5里行軍しようという趣旨だ。行軍組は、その後雷山千如寺見学を経て風光明媚な芥屋磯の屋で海の幸に舌鼓を打ち、掛け替えのない時を共有した。

ゴルフ組は6組が雷山の裾の丘陵地に広がる伊都ゴルフ倶楽部で日頃磨いた腕を競い合い、ゴルフを通じて旧交を温め合った（優勝・金内信二君）。

涙あり、笑いあり 我々同期は夢のような2日間を共に過ごした。

15年前に開催された東京修猷会総会で剛質会は幹事学年を務めた。その時のスローガンが『修猷スイッチ』。以来このスローガンは脈々と受け継がれてきた。今回の還暦同窓会のスローガンも『修猷スイッチ』。修猷館高校を卒業した者は皆、胸に秘めた熱い想いを持っている。そのスイッチをONにして若かりし頃を思い出し、いつまでも六光星を胸に秘め、志高く生きて行こうという思いが込められている。

2日目の朝、我々は様々な感傷に浸りながら、別れを惜しみ、そして再会を誓いつつグローカルホテル糸島を後にした。

ロビーの壁にあしらわれた無数の六光星が、我々の行く手を温かく見守っていた。



2023. 10. 8 (日) 修猷館高校S57年卒 剛質会還暦記念大同窓会 於：グローカルホテル糸島

通信制部会より

「静」と「動」



通信制事務局長

田中武道

(昭和51年卒)

昭和23年4月、修猷館高校に通信教育部が設置され800名の志願者の中から238名が入学。戦後間もないころの食糧難と物不足の中で先生方も事務方も大変なご苦労があったようがございます。なかでも、初代主事を務められた水崎淳一先生のご苦労は、大変なものがありました。氏は、自ら教材を作り謄写して生徒に送り、そのレポートを添削返送されていました。一方、巡回指導にも力を入れられ日曜日等を利用して県内各地を回られておりました。そんなご苦労の中、生徒には単位が賦与されず高校の卒業資格が取れないということで、それを打開するため奔走され、ついに通信教育のみで卒業資格が認められることになりました。

さて、令和5年は、通信制部会で訃報が相次ぎました。5月の高濱繁行福岡西支部長(平成9年卒)に続いて、7月には橋本善臣名誉会長(昭和28年卒)が逝去されました。奇しくも通

信制の最終年と第1回卒業生の訃報の記事を書くことになるなんて思いもよりませんでした。

橋本善臣名誉会長が「静」、奥八女で静かに暮らしてありました。高濱繁行福岡西支部長は、早良区在住で山笠の昇き手を務められておりました。正に「動」、そして「老」と「壮」。お二人は、本当に好対照でありました。ここに謹んでお二人のご冥福をお祈り申し上げます。

「静」 昭和28年卒業 名誉会長 橋本 善臣

(享年94歳) 令和5年7月27日没

昭和28年3月28日、橋本善臣青年は、日本での通信制卒業生第1号として、その栄冠を勝ち取られ修猷館高校全日制の卒業式に出席されました。5年間、艱難辛苦の勉学が実り晴れて卒業を迎えられました。昭和37年11月18日、山下直人先生のご尽力により同窓会通信制部会が設立され会長に就任。併せて、本部同窓会の常任幹事を命じられました。

平成26年11月16日、通信制部会第53回定期総会が地元黒木町のグリーンピア八女で開催され、ご挨拶をしていただきました。当日は、恩師と合わせて108名の方にご出席頂き盛会でありました。

「動」 平成9年卒業 福岡西支部長 高濱 繁行

(享年57歳) 令和5年5月26日没

お通夜の時、祭壇には山笠の法被が飾られていて遺影から受ける感じは、修猷魂に満ち溢れた豪快なお人柄とお見受けしま

した。お孫さんには、好々爺の顔も見せてありました。同氏はこれから通信制部会長を務めて頂きましたかった人財であり、若くして旅立たれ惜しまれてなりません。また、平成8年度に生徒会長を務められていて、コメントが通信制閉課程誌に掲載されていましたので転載させて頂きます。

「私は、この修猷館通信制に入學し本当によかったと思います。様々な人と出会えて仲間ができ、いろいろな事を教えてもらい、そして別れ、短い期間ですが一生忘れられない思い出です。このような学校が無くなるのは心惜しいことですが、単位制高校に移設しても修猷館通信制で培ったすばらしい伝統や校風が生かせる事を願っています。」

合掌

「勧誘電話にご注意ください」

令和2年5月に同窓会名簿を発行しましたが、その後、同窓会名簿を利用したとみられる勧誘電話の情報が寄せられています。このような勧誘電話とは同窓会は一切関わりありませんのでご注意下さい。

同窓会名簿は同窓生以外には販売しておりません。複製、転売は禁止です。

同窓生の皆さま、名簿の取り扱いにくれぐれもご注意くださるようお願いいたします。

学年一口連絡アンケートナ

【昭和29年卒】 六八会の皆さん元氣ですか？

総会をやめ、六月、十月の第2木曜日の昼食会にして一年。昨年は六月は16名(内女性4名)、十月は15名(内女性4名)の参加でした。今年は六月十三日、十月十日です。元氣に出席ください。安河内、松本、浜、瀬戸、岡崎、春日、古賀恵介、坂本、佐藤、高原、権藤(高尾)、藤(尾形)の兄妹が旅立ちました。黙祷

岡村 祥三

【昭和30年卒】 福岡市中心部で平日13時から昼食会を開いています。3カ月毎の開催が目安です。お互いの近況と有益な情報交換のよい機会になっています。参加希望者には案内致します。電話またはEメールでご連絡ください。

城川 明

【昭和32年卒】 学年同窓会としてこれまでに発行した出版物等を修猷館の図書館に納めました。卒業二十周年、同三十周年、同四十周年、同五十周年の各記念誌▽アート展の来場者芳名録▽登ろう(会)登山記録三冊(四十五周年、五十周年)▽同窓会通信「希喜の風」のCD▽記念歌「あしたに幸せを」(田中穰一君作詞・作曲)のCDです。ご来館の折ご覧下さい。

武藤 信

【昭和33年卒】 私共は十一月十日、卒業してから六十五年にな

るので同窓会を天神のソラリア西鉄ホテルで開催し、五十名ほどが集まり、得丸君の司会で当時は思い出して、芦塚君の乾杯で全員で各々の健康を祝しました。今年で皆八十四歳になりましたので、それなりに足腰が弱くなっておりますが、気持ちだけは高校時代と同じです。

入江 正徳

【昭和44年卒】 獅子の会例会を奇数月の第一土曜日(1月は第二土曜日)に福岡市天神の『天神芙蓉』さんで、夕方17時から19時まで、開催しています。開催前に、善敏治君からメールで案内しますので、ふるつての参加をおねがいます。メールが来ていない方は、メールアドレスを麻生俊郎宛(連絡先は「学年連絡先」を参照)までお知らせください。

常任幹事 麻生 俊郎

【昭和45年卒】 3月17日、修猷の文化祭に合わせて卒業五十周年記念事業を行います。後輩達の活躍と学校見学を楽しみましょう。夜はホテル日航での大懇親会、翌日18日は大宰府政府の歴史に思いをはせて、太宰府巡りバスツアーを行います。皆様にお目にかかれる日を楽しみにしています。(恒例の二月の新年会は中止といたしました)

森下 七百枝

【昭和46年卒】 卒業50年記念で「在校生へのメッセージ文集」を制作。図書館と同窓会館に金文字製本版を寄贈しました。中国・四国修猷会創立の奮闘記など貴重な記録も収録しています。文章のほか、写真や絵画、短歌も寄せられました。思えば、十

里踏破遠足や幹事学年の時の「卒業生、学校へ帰る」も私たちが始めたものでした。文集も伝統となる様、願っています。

副島 広巳

【昭和49年卒】 60代後半ともなると、世界各地や日本各地で活躍していた友人達がそれぞれの家に戻ってきました。すると同時にその世界各地日本各地へ旅する人も増えてきました。ある人はいつのまにかプロのカメラマンみたになつて、ある者は大漁旗翻し釣り竿もつて颯爽と空も海も越えていく。又ある人はヨットに乗って皆既日食さえ追いかける。ダイビングで世界の海を廻っている者もいる。リュック背に掛けナビ携帯、トクトク切符に老眼鏡、色んな物持って良い旅している4649(よろしく)会のメンバーです。

小柳 有美

【昭和50年卒】 五輪会の皆様、お元気ですか。11月11日(土)の同窓会は39名出席(内女子3名)のもと開催されました。定年退職後に福岡に帰ってきた同窓も増えてきており、旧交を温めながら、楽しく盛り上がりました。

長澤一成会長からは、2年後に卒業50周年記念同窓会を盛大にやろうと呼びかけがありました。また、藤井一郎ゴルフ部会長が乾杯の挨拶で、パリオリンピックにおける引き続きの応援要請がありました。(九電工からマラソンでオリンピック出場が決まっています)翌日の五輪会ゴルフコンペでは、宮崎浩平君のあわやのホールインワンという好プレーや数々の珍プレーがありました。安部公政君が106点で見事優勝しました。また、元気に集まりましょう。

五輪会(50年卒) 伊東 望

【昭和52年卒】 皆さん、お元気ですか。山歩きの好きな者もそれほどでもない者も自然に集まり、年に二回、春は春振山系、秋は九重山系や由布岳などを歩いています。同級生の好意で安く宿泊し、春はバーベキュー、秋は由布院の街で焼肉、が定番で、ワイワイガヤガヤ楽しいひとときです。毎年横浜から参加する同級生もいます。福岡はすぐに行ける山が多いので歩くには大変いいところ。年齢を重ね仕事の方は落ち着いてきましたので、健康のためさらに山を楽しみたいと思います。初参加の方も大歓迎。ご一報ください。

10組 山歩きの会 高村 和幸

【昭和54年卒】 2023年より新年会を再開しました。学年内のお知らせは、SakaiML、Facebook、合志会サイト (<http://Sakai-staff.jp>) をご覧ください。合志会サイト公開部分には、種々の修猷関連情報も掲載しています。

菊池 政道

【昭和56年卒】 「スゴロク企画」というチームを立ち上げました。主に野外活動と屋内の懇親会を二本柱とし、テーマは安・近・楽。最近では四王寺山、舞鶴BBQ、ヨガ体験、宗像大島城島酒蔵開き、忘年会などをやっています。還暦同窓会の次の大きな集まりも企画中です! これからの長い老後を、楽しくゆる〜く過ごして参りましょう。

久保・中村

【昭和57年卒】 剛質会の皆さん、元氣にお過ごしですか?

昨年10月8日(日)に、還暦同窓会を福岡で開催しました。遠方からも多数参加、本当に有難うございました。日頃、ゲ

ループレILINEで情報交換していますので、登録を希望される方は連絡ください。

田中 徹

【昭和58年卒】 昭和58年卒の我々は、昨年が卒業40周年でした。そして、今年が大多数が還暦を迎えます。そこで今年（令和6年）10月19日（土）、20日（日）に福岡で還暦同窓会を開催します。10月19日の夜、ソラリア西鉄ホテルでの祝宴の他、様々な企画を検討中です。詳細は【修猷38MI】等で案内します。メーリングリスト未加入の方やアドレスが変わっている方は学年連絡先までお知らせください。

学年幹事 池上 浩司

【昭和60年卒】 メーリングリストとFacebookで猷馬会のお知らせをしています。

メールが届いていない方はアドレスをお知らせ下さい。（連絡先は「学年連絡先」を参照）

常任幹事 中村 成克

【平成元年卒】 毎年1月2日とお盆前に学年で集まっています。また今年から毎月1日「ついでに私たち家」開催しています。帰省の際はぜひ参加してください。

今泉 忠

【平成3年卒】 讃猷会の皆様、昨年近畿総会の当番学年が終了し、同窓会の役回りも一段落しました。今後は、正月、5月福岡総会、6月東京総会、8月お盆という理由を付けて集ま

りましょう。

毎週木曜日か金曜日の夜、大濠公園を歩こう会で同級生散歩を楽しんでいるので、参加したい人、近くを通りかかった人は連絡ください。（笑）

松田 由理子

【平成5年卒】 GO猷会のみなさま、お元気ですか？

今年の秋には近畿修猷会総会の幹事学年を控えています。近在任の同級生は限られていますので、みんなでお手伝いに行きましょう。

今年で50歳、健康にも気を配りながら楽しく過ごして参りましょう。

常任幹事 能見 信二

【平成6年卒】 昨年の同窓会総会は、六星会の皆さんのおかげで無事に大役を務めることができました。

皆さんの行動力と連携力の凄さを実感し、強く心を打たれました。

引き続きゆるりとながらながら、今年の総会でまた集ましましょう。

常任幹事 党 智

【平成7年卒】 七猷会の皆さま、早いもので卒業30年、いよいよ幹事学年がやってまいりました。

古賀実行委員長のもと、「Great Conjunction 修猷大会合！〜今こそ集え一千人〜」のコンセプトを掲げ、同窓会総会に向けて日々準備を進めております。各種コラボグッズも続々と出

来上がつてきております！ 同窓会総会当日は、七献会の皆で
大いに盛り上げて行きましょう！！
日時・場所は裏表紙をご参照ください。

常任幹事 池下 智

【平成8年卒】平成八年卒の皆様。我々「平八会」は、令和七
年度の同窓会総会・懇親会の幹事を務めます。先日、高平良実
行委員長の下、準備に着手したところで、現在実行委員会の組
織づくりを進めています。

総会の開催には多くの方の力が必要です。ご協力いただける
方はご連絡ください！（学年連絡先参照）
皆様、何卒ご協力よろしく願います！

平田 将彦

【平成9年卒】二〇二四年六月の東京総会の実行委員長の竹野
君や南部さんを中心に準備が本格的に進んでいます。また、
二〇二六年五月の全体同窓会に向けても、福岡を中心に始動し
ています。どちらも卒後三十周年に向けて懐かしい仲間との縁
を深めたり、現役時代に話さなかつた人ともつながったりする
機会になりますので、ぜひご参加ください。

「運営」ことに関わるのは難しい…という方も、まずは連絡
のために同級生LINEグループにご登録いただきたいです。
未登録の方は峰までご一報ください。

常任幹事 峰 雅紀

【平成10年卒】平成10年卒の皆さん、いかがお過ごしでしょう

か。早いもので卒業してもう25年です。2025年には東京修
猷会、2027年には福岡での同窓会総会の当番幹事が回って
きます。少しずつですが準備を進めていく中で、懐かしい友人
たちと過ごす楽しさも感じています。平成10年卒のLINEグ
ループでこれからもプチ同窓会などの情報を案内していきます
ので、登録をしていない方は是非ご一報ください。卒後30年
には大きな同窓会ができたらと思います。

常任幹事 マメこと村上 弘

【平成12年卒】2000年卒のみなさん、お元気ですか？ 昨
夏は盆に西新でプチ同窓会を開催し、30名が集まりました。一
番遠くはアメリカから！ 今年もまた集まりましょう。

松尾 光泰

【平成15年卒】平成15年卒は60名ほどで卒後20周年を開催でき
ました！ また会える日を楽しみにしています！

常任幹事 田元

『ご寄付への御礼』

昭和34年卒三思会様より、活動終了に伴い、ご寄付をあ
りがたく頂戴いたしました。

厚く御礼申し上げます。

修猷館同窓会 事務局

学校報告

創立記念講演

『お客さま目線』の経営改革

『ちよっととした違い』へのこだわり

福岡商工会議所会頭 西日本シティ銀行会長

谷川 浩道 氏

(昭和47年卒)

5月26日に創立記念行事が行われた。この創立記念行事は、天明4年(1784年)の創立から239年、長きにわたって受け継がれてきた本校の歴史を再確認し、未来へと繋ぐための意義深い行事である。

創立記念式典では、中神智文館長は、天明4年の開校以来「修猷館」という校名を守り継いで来られた諸先輩方に敬意を表すとともに、創立記念式典が本校創立に思いを馳せる機会であつてほしいと語った。

記念講演では、福岡商工会議所会頭、西日本シティ銀行会長でいらつしやる本校昭和47年卒の谷川浩道氏にお越しいただき、『お客さま目線』の経営改革『ちよっととした違い』へのこだわり』と題してご講演をいただいた。

講演の中で谷川氏は、ご自身の生い立ちに触れ、社会全体が

今日のように豊かではなかった頃の小学校時代に、貧富の差を身近に感じることで格差や不公平に強い関心を持つようになったこと、そして修猷館高校時代に、自由な校風の中で、生徒たちが自らの頭で考えることの大切さを自然に体得したこと、さらには自身の同窓生との深い関わりを多様なエピソードを交えながら述べられた。

また、東京大学を経て、大蔵省、在米国日本大使館、横浜税関等での経験や、西日本シティ銀行での取り組みを

お話しくださった。西日本シティ銀行の頭取として何よりも力を注いだことは、お客様第一の営業を心がけることであり、お客様を単に商売の相手と見るのではなく、お客様をパートナーとして見ることが大切なのだ、と語られた。さらには、業務の革新に努めたり、研修施設の充実を図って人づくりに力を注いだりしたこと、女性の登用や創業支援に尽力したこと、こうしたさまざまな取り組みを具体的に示してくださった。

最後に、組織の一員としてのあり方について触れられた。①ウォームハート(温かい心情)―感動する心、共感する心、謙虚な心、②クールヘッド(冷静な思考)―常識を疑う眼、自分の頭で徹底的に考え、「何故?」を何度も繰り返すこと、③使命感(情熱)―チャレンジ精神、これらの三つの大切さを力説された。特に、イギリスのチャーチル元首相の「成功とは、熱



意を失うことなく、何度も失敗を重ねることである」とという言葉を紹介され、失敗を恐れず、むしろ失敗に学びながらチャレンジを続けることが、チャンスをつかむことでもあるというメッセージで講演を締めくくられた。

文化講演会 「21世紀に羽ばたくための学習法」

数学者 大道芸人

ピーター・フランクル氏

秋も深まり、読書や思索を楽しむのにぴったりの季節となった頃、10月25日に文化講演会が行われた。本校の文化講演会は毎年秋に、生徒の知的好奇心を喚起する目的で、各界でご活躍の著名人をお招きして開催されている。本年は、数学者であり大道芸人でもあるピーター・フランクル氏をお招きし、「21世紀に羽ばたくための学習法」と題して約百分間ご講演をいただいた。ピーター氏はハンガリー生まれだが、母語のハンガリー語に加えて、ドイツ語、ロシア語、スウェーデン語、フランス語などの12言語を大学で講義ができるレベルまで話すことができ、本講演でも流暢な日本語でユーモアを交えながら生徒に語りかけてくださった。

講演の最初にジャグリングを披露され、生徒たちはその素晴らしい技に魅了されていた。ピーター氏は日本で一番好きな街は福岡で、福岡には1984年以降、二百回以上来ており、本校にも1996年6月に講演をして以来2度目の来校とのことであった。さらには数学の問題も2題出題された（講演後の質疑の時間に生徒から解答があった）。

最も熱く語ってくださったことは、「人生の最適化」についてである。人生の最大資源は時間であり、時間を有効に使うためには計画的に「人生の主人公である自分」の「時間割」をつくるのが大切であるというお話は大変印象深かった。また、これからの時代に必要な能力は、「数学」と「コミュニケーション」の力であり、自分の頭で論理的に考える能力、そして周囲の人と上手くコミュニケーションをとる能力が必要であると語られた。ピーター氏自身も、数学者の広中平祐教授やグロタンディーク教授（両名とも「数学のノーベル賞」と呼ばれるフィールズ賞の受賞者）との出会いを通して、「他人との出会いを大切にし、勇気をもって話しかける」ことの大切さに気付いたそうである。最後に、日本の諺である「袖振り合うも他生の縁」を引き合いに出して、「出会うべくして出会った人との出会いを大切にしてほしい」というメッセージで講演を締めくくられた。



令和五年 部活動

事業部 (4)

執行部・議長団・応援団・新聞部

文化部 (19)

文芸部・演劇部・映画制作部・物理部・化学部・生物研究部・数学研究部・写真部・コーラス部・吹奏楽部・美術部・書道部・ESS部・JRC部・華道部・茶道部・パソコン部・デイベート部・放送部

体育部 (16)

弓道部・剣道部・柔道部・水泳部・山岳部・陸上部・野球部・ソフトテニス部 (男子) (女子)・テニス部 (男子) (女子)・卓球部・バスケットボール部・バレーボール部 (男子) (女子)・ラグビー部・サッカー部・ヨット部・バドミントン部

総合部 (1)

文体総合部

現在40のクラブの下で現役生は元気に活動しています。各クラブ活動については修猷館HP「部活動紹介」をご覧ください。

修猷館生の活躍

— 全国高校総体準優勝 —

8月7日から11日に北海道で全国高校総体(インターハイ)が開催され、山岳部は登山男子団体において準優勝に輝きました。初日は天気図や自然、救急などについての試験があり、二日目からの十勝岳連峰と大雪山系での登山では体力、歩行、テント設営・炊事などの生活技術、マナーなどが審査されました。修猷館は100点満点中で98.9点で、首位との差はわずか0.2点でした。リーダーの川添天(3年)は「練習と事前の準備が実際の登山とうまくかみ合って、いい成績を収めることができました。自分たちの3年間は間違っていなかった。」と語っています。



他のどの部活動についても、勉強と両立させながら健闘しています。新聞、生物研究、書道、華道、デイベート、陸上、山岳、水泳、ヨット、文体総合(囲碁)が全国大会への出場を果たしています。

同窓会の歩み

六・三 中京修猷会（大同特殊鋼健保会館 中神館長・津田会長・上田幹事長 44名）

九 東京修猷会（サンシャインクルーズクルーズ 中神館長・津田会長・上田幹事長 345名）

二二 修猷協会理事會・評議員會

二四 中国四国修猷会（広島グランドインテリジェントホテル 中神館長・津田会長・上田幹事長 36名）

七・一〇 佐賀修猷会（アパホテル佐賀駅南口 グリルタケシタ 中神館長・上田幹事長 25名）

二二（一九）生徒海外研修（サンノゼ・ロサンゼルス 12名）

九・九 大運動會

一一・二 海外研修報告會（上田幹事長）

一一 近畿修猷会（ホテルモントレグラスミア大阪 中神館長・津田会長・上田幹事長 167名）

一六 応援歌伝承會

一八 沖繩修猷会（抱瓶 那覇店 井地教頭・上田幹事長 24名）

二五 東北修猷会（仙台ガーデンパレス 中神館長・上田幹事長 22名）

二五 熊本修猷会（アークホテル熊本城前 井地教頭 21名）

一二・九 長崎修猷会（サンプリエール 中神館長・上田幹事長 31名）

毎月第2木曜日役員會（5月・8月・12月・1月を除く）

名簿管理・菁莪編集・ホームページ運営・

歴史伝統伝承・資料館運営 各委員會 適宜開催

一・二三 役員會・学年幹事會合同新年會（KKRホテル博多 89名）

二八 宮崎修猷会（隠れ里の懐石料理わらしべ 岡本館長・大賀幹事長 12名）

二七（二九）アジア研修（台湾 16名）

二・一六 菁莪発送

一八 大分修猷会（ホテルニュートルタ 岡本館長・津田会長・大賀幹事長 18名）

二〇 修猷協会理事會

※鹿児島修猷会（中止）

三・三 同窓会入会式（西高辻副会長・大賀幹事長・中本事務局長）

四 第75回卒業式（434名 男子225名 女子209名 津田会長・大賀幹事長・中本事務局長）

四・七 入学式（441名 男子228名 女子213名 津田会長・大賀幹事長・中本事務局長）

七 令和4年度會計監査

五・一一 学年幹事會（令和4年度會計決算承認 76名）

二六 修猷館創立記念式典

卒業生キャリアアセミナー

二六 同窓会総会（ホテルニューオータニ博多 910名）

二八 OBゴルフ大会（福岡カンツリー倶楽部 和白糖コース 34組 134名）

役員会・学年幹事会報告

二月九日（役員会）

(1) 学校から 共通テスト報告

第1回アジア研修実施

部活動報告

岡本館長 今年度で定年退任

(2) 各種委員会から

・資料館運営委員会 清掃、燻蒸について報告

・菁莪編集委員会 「菁莪」発行状況について

(3) 常任幹事の交代について

(4) 令和5年度同窓会総会について

(5) 支部総会報告

(6) その他

・役員会・学年幹事会合同新年会報告

三月九日（役員会）

(1) 学校から 第1回アジア研修報告

文化祭について

大学入試速報

(2) 同窓会入会式について 3月3日（金）

(3) 卒業式について 3月4日（土）津田会長他2名出席

(4) 各種委員会から

・菁莪編集委員会

・ホームページ運営委員会

・資料館運営委員会 展示ケース増設案について

(5) 修猷協会理事会報告

(6) 令和5年度同窓会総会について

四月十三日（役員会）

(1) 学校から 管理職の紹介（中神智文 新館長）

文化祭について

入学式について

応援歌指導・創志研修について

(2) 修猷館高校転退職職員への饞別について

(3) 入学式について 4月7日（金）津田会長他2名出席

(4) 各種委員会から

・歴史伝統伝承委員会

(5) 令和5年度同窓会総会について

審議事項

(1) 令和5年度学年幹事会について

五月十一日（学年幹事会）

議事

(1) 令和4年度事業報告及び収支決算書（案）

(2) 会計監査報告並びに決算承認の件

(3) 令和5年度事業計画及び予算（案）審議並びに承認の件

(4) 役員交代の件

その他

・令和5年度同窓会総会について

六月八日 (役員会)

(1) 学校から アメリカ研修について

小学生ふれあい教室について

部活動報告

(2) 学年幹事会報告

(3) 同窓会総会報告 幹事学年六星会より開催の報告とお礼

(4) 支部総会報告

中京 6月3日(土) 中神館長、津田会長、上田幹事長が参

加

(5) 各種委員会から

・歴史伝統伝承委員会

七月十三日 (役員会)

(1) 学校から アメリカ研修について

東京研修について

部活動報告 全国大会出場

(2) 支部総会報告

東京 6月9日(金) 中神館長、津田会長、西高辻副会長、

上田幹事長が参加

中国四国 6月24日(土) 中神館長、津田会長、上田幹事長

が参加

佐賀 7月10日(月) 中神館長、上田幹事長が参加

(3) 修猷協会理事会・評議員会報告

(4) 各種委員会から

・委員会メンバー再編成について

(5) 「個人情報保護方針」の制定について

九月十四日 (役員会)

(1) 学校から アメリカ研修報告

運動会について

(2) 総会幹事学年引き継ぎについて

平成6年卒六星会から平成7年卒七猷会へ

※平成8年卒平八会 オブザーバー参加

(3) 各種委員会から

・菁莪編集委員会 周年行事の寄稿依頼

(4) 「個人情報保護方針」について

(5) その他

・寄附金について 三思会(昭和34年卒)より

審議事項

(1) 常任幹事の交代について

その他

・支部総会開催予定

十月十二日 (役員会)

(1) 学校から ラグビーW杯について

修猷フェストについて

募集定員増について

(2) 各種委員会から

- ・ 菁莪編集委員会 学年一口アンテナの寄稿依頼
 - ・ 資料館運営委員会
- 審議事項

(1) 個人情報保護方針の制定について

(2) 常任幹事の交代について

(3) 令和7年度同窓会総会・懇親会の日程について

日程…令和7年5月24日(土)

会場…ホテルオークラ福岡

幹事学年…平成8年卒平八会

その他

・ 支部総会開催予定

十一月九日 (役員会)

(1) 学校から 部活動報告

文化講演会について

海外研修報告会について

出前授業・修猷フェストについて

第2学年沖繩研修旅行について

(2) 各種委員会から

・ 菁莪編集委員会 12月中に編集完了予定

・ 資料館運営委員会 資料館の音声案内について

・ 名簿委員会 令和7年5月に名簿発行予定

・ 歴史伝統伝承委員会 11月16日に応援歌伝承会を実施予定

・ H P 運営委員会 11月9日に「個人情報保護方針」をH P 公開

(3) 令和6年度同窓会総会の進捗について

その他

・ 役員会・学年幹事会合同新年会の開催について

令和6年1月11日 アークホテルロイヤル福岡天神にて開

催の予定

令和4年度 同窓会会費入金状況

令和4.4.1～令和5.3.31

| 卒 年 | 済 | 人員 | 終身会費 | 人員 | 年会費 | 卒 年 | 済 | 人員 | 終身会費 | 人員 | 年会費 |
|--------|-----|----|---------|----|--------|---------------------|--------|----|---------|-----|-----------|
| 昭 14 | 85 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 381 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 93 | 0 | 0 | 0 | 0 | 61 | 394 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 121 | 0 | 0 | 0 | 0 | 62 | 394 | 0 | 0 | 1 | 2,000 |
| 17 | 142 | 0 | 0 | 0 | 0 | 63 | 424 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 18 | 159 | 0 | 0 | 0 | 0 | 平 1 | 370 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 19 | 126 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 407 | 2 | 40,000 | 0 | 0 |
| 20 (5) | 131 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 425 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 20 (4) | 124 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 441 | 1 | 20,000 | 0 | 0 |
| 21・22 | 156 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 396 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 23・24 | 241 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 436 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 25 | 194 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 449 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 26 | 208 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 484 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 27 | 268 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 438 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 28 | 269 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 429 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 29 | 247 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 432 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 30 | 253 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 394 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 31 | 243 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 389 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 32 | 262 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 396 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 33 | 279 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 397 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 34 | 264 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 402 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 35 | 261 | 0 | 0 | 1 | 2,000 | 17 | 398 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 36 | 275 | 0 | 0 | 3 | 6,000 | 18 | 397 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 37 | 249 | 1 | 20,000 | 9 | 18,000 | 19 | 390 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 38 | 237 | 1 | 20,000 | 4 | 8,000 | 20 | 390 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 39 | 200 | 2 | 40,000 | 8 | 16,000 | 21 | 390 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 40 | 272 | 3 | 60,000 | 10 | 20,000 | 22 | 390 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 41 | 330 | 1 | 20,000 | 9 | 18,000 | 23 | 397 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 42 | 308 | 3 | 60,000 | 9 | 18,000 | 24 | 393 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 43 | 333 | 3 | 60,000 | 6 | 12,000 | 25 | 435 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 44 | 296 | 1 | 20,000 | 8 | 16,000 | 26 | 402 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 45 | 310 | 0 | 0 | 6 | 12,000 | 27 | 399 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 46 | 271 | 1 | 20,000 | 3 | 6,000 | 28 | 433 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 47 | 289 | 0 | 0 | 5 | 10,000 | 29 | 433 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 48 | 248 | 2 | 40,000 | 0 | 0 | 30 | 398 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 49 | 284 | 1 | 20,000 | 2 | 4,000 | 31 | 427 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 50 | 290 | 1 | 20,000 | 6 | 12,000 | 令 2 | 436 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 51 | 310 | 0 | 0 | 4 | 8,000 | 3 | 392 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 52 | 246 | 3 | 60,000 | 1 | 2,000 | 4 | 433 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 53 | 222 | 1 | 20,000 | 4 | 8,000 | 合 計 | 26,362 | 38 | 760,000 | 107 | 214,000 |
| 54 | 240 | 0 | 0 | 2 | 4,000 | 卒 業 生 会 費 計 | | | | | 974,000 |
| 55 | 243 | 1 | 20,000 | 0 | 0 | 通 信 | | | | | 40,000 |
| 56 | 265 | 6 | 120,000 | 4 | 8,000 | 定 時 | | | | | 30,000 |
| 57 | 240 | 2 | 40,000 | 1 | 2,000 | 卒業生終身会費年会費合計 | | | | | 1,044,000 |
| 58 | 254 | 2 | 40,000 | 1 | 2,000 | 令 5 年 卒 業 生 終 身 会 費 | | | 434 | | 8,680,000 |
| 59 | 413 | 0 | 0 | 0 | 0 | 総 合 計 | | | | | 9,724,000 |

修猷館同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は修猷館同窓会と称する。

第2条 本会は事務局を福岡市早良区西新3-12-14：修猷館同窓会館内に置く。

第3条 本会は会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

- 1) 会員名簿の発行
- 2) 同窓会誌「菁莪」の発行
- 3) 創立記念事業
- 4) その他必要な事業

第4条 本会は次の会員によって組織する。

- 1) 通常会員
 - イ) 福岡県立中学修猷館卒業生
福岡県中学修猷館卒業生
 - ロ) 福岡県立高等学校修猷館卒業生
福岡県立修猷館高等学校卒業生
 - ハ) 上記の学校に在籍した者で入会を希望する者
 - ニ) 福岡県立修猷館高等学校定時制卒業生
 - ホ) 福岡県立修猷館高等学校通信制卒業生
- 2) 特別会員
上記学校の教職員および旧教職員
- 3) 準会員
福岡県立修猷館高等学校在校生

第2章 役 員

第5条 本会に次の役員を置く。

| | | | | | |
|---------|--------|-------|---------|------|----|
| 会 長 | 1名 | 副 会 長 | 若干名 | 名譽会長 | 1名 |
| 常任幹事長 | 1名 | 事務局長 | 1名 | 監 事 | 2名 |
| 常任幹事 | 全日制各年次 | 1名 | (40名以内) | | |
| 定時制・通信制 | 若干名 | | | | |
| 相 談 役 | 1名 | 顧 問 | 若干名 | | |

第6条 本会役員を選任は次のとおりとする。

- 1) 会長・副会長および監事は通常会員中より役員会において選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 2) 名誉会長は母校館長とする。
- 3) 常任幹事は、原則として卒業後17～56年次および定時制・通信制会員より選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 4) 常任幹事長は常任幹事中より会長が委嘱する。
- 5) 上記以外の役員は通常会員中より会長が委嘱する。

第7条 役員は次の任にあたる。

- 1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその代理をする。
- 3) 常任幹事長は会長の意を受け、円滑な会務の運営にあたる。
- 4) 事務局長は金銭の収支、会費の徴収、議事録の作成その他本会事務一般にあたる。
- 5) 監事は会計事務を監査する。
- 6) 常任幹事は本会の会務を執行処理する。
- 7) 名誉会長、相談役および顧問は本会の諮問に応じる。

第8条 本会役員任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

第3章 学年幹事

第9条 学年幹事は全日制各年次3名以内（定時制・通信制は若干名）を選任し、本会に報告する。

第10条 学年幹事は学年幹事会を構成し、その付託事項を処理する。

第4章 会 議

第11条 総会

定期総会は原則として毎年5月30日（母校創立記念日）に会長が招集し、役員を選任・予算・決算・規約改正およびその他の会務報告を行う。

2. 臨時総会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

第12条 学年幹事会

学年幹事会は学年幹事をもって組織し、役員を選任・予算・決算・規約改正、その他会務執行に必要な重要事項を審議決定する。

2. 定期学年幹事会は原則として毎年5月の第2木曜日に会長が招集する。

3. 臨時学年幹事会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

4. 学年幹事会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第13条 役員会

役員会は役員をもって組織し、予算・決算・規約改正案の作成および会務執行に必要な事項を審議し処理する。

2. 会長は随時必要なときにこれを招集し、議長となる。

3. 役員会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第5章 組 織

第14条 委員会

本会は会務執行にあたり、必要な場合に委員会を設置することができる。

第15条 事務局

本会に事務局を置き、事務局長1名、事務局次長1名および事務職員若干名をおくものとする。

第16条 支部

本会は遠隔地の会員との連絡を密にするため、必要な地に支部を置くことができる。

2. 支部の結成は代表者の申し出により、役員会の承認を受ける。

3. 支部の運営は各支部の定めるところとする。

第6章 会計および庶務

第17条 本会の経費は会費および寄付金および運用収入をもって充てる。

第18条 本会の会費は終身会費20,000円、年会費2,000円および特別会費とする。

第19条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第20条 本会は一般財団法人修猷協会の運営管理に關しての権利は相応に保有するものとする。

第7章 補 則

第21条 本会会務の処理に必要な細則は別に定める。

第22条 本会則は昭和43年5月30日より施行する。

昭和49年5月30日一部改正。

昭和53年5月30日一部改正。

昭和55年5月30日一部改正。

昭和59年5月30日一部改正。

平成21年5月30日一部改正。

平成27年5月30日一部改正。

修猷館同窓会 個人情報保護方針

修猷館同窓会（以下「当会」という）は、当会が取得し取扱う会員の個人情報の保護が重要な責務であることを認識し、以下のとおり個人情報保護方針を定め、これを遵守します。

1. 当会が取得する個人情報について
当会が取得する会員の個人情報は以下のとおりです。
氏名・性別・住所・電話番号・メールアドレス・勤務先または在学学校名・勤務先または在学学校の電話番号・卒業年・最終学歴
2. 個人情報の利用目的について
ご提供いただいた情報は機密扱いとし、会員の管理、会報等の送付および同窓会名簿の発行・送付を含む同窓会（支部を含む）の各種事業に役立てる目的のみに使用します。
3. 個人情報の取得方法について
当会における個人情報の取得は、以下の方法によることとします。
①当会事務局から会員本人または常任幹事もしくは学年幹事へ提供依頼する方法
②会員本人の家族または他の会員から間接的に事務局へご連絡いただく方法
③会員本人から直接事務局へご連絡いただく方法
4. 個人情報の管理について
当会では、個人情報を正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざん・漏洩または再提供（「6. 個人情報の第三者への情報提供について」に記載する場合を除きます）などのないよう、適切な管理を実施いたします。また、個人情報の処理を外部に委託する場合は、個人情報を適正に取り扱っている委託先を選定し、契約等を通じて、必要かつ適切な監督を行います。
5. 個人情報の開示・訂正・利用停止について
会員本人が自己の個人情報について、開示、訂正及び利用停止を求める権利を有していることを確認し、これらの要求がある場合には、会員本人からの請求であることを確認の上、速やかに対応します。
6. 個人情報の第三者への情報提供について
当会は、会員本人の同意を得た場合以外は、他の会員、同窓会支部以外の第三者に提供を行いません。ただし、当会が事業を行うために業務（同窓会名簿の作成、「菁莪」の発行等を含むがこれに限らない）を委託する外部業者に対し提供する場合、警察や裁判所等の公的機関から法律に基づく手続において照会を受けた場合、同窓会の権利や財産等を保護するため必要と認められる場合および人命・身体・財産等に対する緊急の必要性がある場合は除きます。
7. 個人情報管理責任者の配置について
個人情報を取り扱う責任者を置き、適切な管理を行います。
管理責任者は、事務局長とします。
8. お問い合わせ
当会の個人情報保護方針に関する、ご意見、ご質問、苦情の申出その他個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、以下の窓口にご連絡ください。
修猷館同窓会 事務局
住所：〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新3-12-14
TEL：092-821-0663 FAX：092-821-0672
Email：jimukyoku@shuyukan-dosokai.com
9. 法令等の遵守・個人情報保護方針の改定
当会では、法令等に従った個人情報の管理、利用を行います。当会では、法令等の変更に合わせて、個人情報の保護をより確かなものとするため、またはその他の理由により、個人情報保護方針を改定することがありますので、定期的に個人情報保護方針のご確認をしていただきますようお願いいたします。
10. 制定日
制定日：令和5年10月12日

修猷館同窓会

☆ 同窓会事務局だより ☆

【会員登録内容の確認について】

これまで『菁莪』に「会員登録内容台紙」を同封して内容を確認いただき、変更の連絡をお願いしていましたが、郵便サービスにおける信書の取扱い厳格化等により継続することが困難になりました。今後、登録内容に変更があった場合は、下記の要領で同窓会事務局にご連絡ください。

【登録項目】

- ①氏名(旧氏名) ②最終学歴 ③自宅住所・電話番号 ④勤務先名・電話番号
※登録できる住所は、1会員につき1箇所を原則としています。国外への『菁莪』の郵送はいたしかねますので、郵送希望の方は国内の連絡先をご登録ください。
※登録内容の確認は、同窓会名簿をご活用ください。

【変更のご連絡について】

変更のご連絡は、メール・FAX・郵送にてお願いします(卒業年次を必ずご記入ください)。ご家族の方にはお願いですが、会員ご本人様が亡くなられている場合は事務局までご連絡ください。

【会費納入のお願い】

終身会費の納入がお済みでない会員に、郵便局用「払込取扱票」を同封しております。
終身会費または年会費いずれかの納入をお願いいたします。

【同窓会費】

- ①終身会費 20,000円(1回限り) ②年会費 2,000円(毎年納入)

【納入方法】 ①②のいずれかの方法で納入ください。

- ①銀行振込(振込手数料のご負担をお願いします)
・福岡銀行 西新町支店 普通預金1094481
・西日本シティ銀行 西新町支店 普通預金1544288
・ゆうちょ銀行 一七九店(イチナナキユウ店) 当座預金0008320
口座名義(共通): 修猷館同窓会(シュウユウカンドウソウカイ)
※振込の際は、ご依頼人の記載を「卒業年次+氏名」としてください。
(例)「S61シュウユウケンジ」「H7ニシノミソラ」
②郵便局での払込み(同封「払込取扱票」利用の場合、手数料同窓会負担)
「払込取扱票」に必要事項を記入して払込みをお願いします。

【個人情報保護方針の制定について】

令和5年10月役員会において、個人情報保護の観点から会員の個人情報の利用目的、取得方法、管理方法などについて定めた「修猷館同窓会 個人情報保護方針」を制定しました。今回の『菁莪』に掲載しています。同窓会ホームページでも公開していますので、ご確認ください。

【同窓会名簿への広告協賛のお願い】

5年毎に発行している同窓会名簿が、令和7年5月に発刊予定です。この名簿を手頃な販売価格とするため、毎回皆さまに広告協賛をお願いしています。具体的な広告仕様は、令和6年秋頃に同窓会ホームページで案内します。ご協力いただける方(法人)は事務局までご連絡ください。

- 【前回実績】 同窓会名簿: A4判 1,400ページ 3,000部 販売価格: 4,000円
広告料金: 1ページ10万円、半ページ5万円

☆ 修猷館同窓会事務局 ☆ (受付時間: 月~金 10:00 ~ 16:00)

〒814-0002 福岡市早良区西新3-12-14

TEL: 092-821-0663 FAX: 092-821-0672

メールアドレス: jimukyoku@shuyukan-dosokai.com

◎ホームページURL: <https://shuyukan-dosokai.com/>

詳細はこちらから⇒



令和4年度 一般財団法人修猷協会活動報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

【修猷協会とは？】

修猷館高校の教育の充実向上を助成し、将来社会に貢献できる人材を育成・輩出することを目的に設立され、同窓会、学校、PTAが協力して運営している法人です。具体的には生徒の海外研修旅行への助成や生徒の学校活動・教育環境整備に関する助成を行っています。

1. 令和4年度事業報告（公益目的支出実施報告）

- (1) 海外研修旅行への助成 助成額：500万円（アメリカ研修450万円、台湾研修50万円）
- (2) 生徒の学校活動・教育環境整備に関する助成 助成額計：700万円
 - ①文化祭活動 30万円
 - ②運動会活動 310万円
 - ③部活動遠征費 150万円
 - ④文化講演会 30万円
 - ⑤施設設備・備品等の整備 180万円

2. 資産・収支の概要

令和5年3月末の資産合計は約7億8千万円であり、そのうち同窓会館の土地建物、学校グラウンド人工芝などの資産を差し引いた約3億円及び同窓会館1階部分のローソンへの賃貸や駐車場による収入が助成事業の原資となります。

令和4年度の収支は、同窓会館1階部分のローソンへの賃貸や駐車場による収入など合計で2,350万円の収入、上記助成額1,200万円を含んだキャッシュベースの費用は2,480万円でした。

3. 役員（理事・監事）及び評議員の状況（令和5年6月21日決議）

- (1) 理事10名（同窓会6名、学校2名、PTA2名）
 - ・同窓会：津田純嗣（S44）大賀啓史（S46）田中雅美（S50）上田英友（S55）
中本純徳（S61）大野慶樹（S63）
 - ・学校：館長、事務長
 - ・PTA：会長、副会長
- (2) 監事2名（同窓会2名）菊池武彦（S49）三戸宗一郎（H2）
- (3) 評議員12名（同窓会6名、学校2名、PTA4名）
 - ・同窓会：久保田勇夫（S36）西高辻信良（S47）谷川浩道（S47）佐伯拓史（S56）
福泉忠興（S59）石橋顕（H4）
 - ・学校：副校長、教頭
 - ・PTA：副会長2名、他2名

4. 今後の課題

現在の資産状況を考えれば学校への定例的な助成について不安はありませんが、将来的な同窓会館の建て替え、資料館の大規模整備、グラウンド人工芝の張替えなどに対応できない可能性が高く、新しい資金確保の方法は今後の検討課題です。また令和4年度を以って当初の公益目的支出計画が完了したことで、次年度以降、より機動的に助成事業が行えるようになりました。

修猷館同窓会役員名簿 (自二〇二三年五月 至二〇二五年五月)

| | | | |
|------|--------------------|------|---------------|
| 顧問 | 波多野聖雄 (S 26卒) | 常任幹事 | 松本 一範 (S 62卒) |
| 相談役 | 出光 芳秀 (S 31卒) | 幹事 | 大野 慶樹 (S 63卒) |
| 名誉会長 | 相談 久保田勇夫 (S 36卒) | 幹事 | 今泉 忠 (H 1卒) |
| 副会長 | 中神 智文 (館長) (S 44卒) | 幹事 | 三戸宗一郎 (H 2卒) |
| 会長 | 津田 純嗣 (S 44卒) | 幹事 | 花田由理子 (H 3卒) |
| 副会長 | 伊藤 哲朗 (S 42卒) | 幹事 | 石橋 顕 (H 4卒) |
| 常任幹事 | 西高辻信良 (S 47卒) | 幹事 | 能見 信二 (H 5卒) |
| 常任幹事 | 谷川 浩道 (S 47卒) | 幹事 | 党 智 (H 6卒) |
| 常任幹事 | 上田 英友 (S 55卒) | 幹事 | 池下 智 (H 7卒) |
| 常任幹事 | 中本 純徳 (S 61卒) | 幹事 | 平田 将彦 (H 8卒) |
| 常任幹事 | 松本 正隆 (S 43卒) | 幹事 | 峰 雅紀 (H 9卒) |
| 常任幹事 | 麻生 俊郎 (S 44卒) | 幹事 | 村上 弘 (H 10卒) |
| 常任幹事 | 森下七百枝 (S 45卒) | 幹事 | 梅北 拓郎 (H 11卒) |
| 常任幹事 | 鞍垣 吉政 (S 47卒) | 幹事 | 松尾 光泰 (H 12卒) |
| 常任幹事 | 黒木 篤 (S 48卒) | 幹事 | 赤司 雅之 (H 13卒) |
| 常任幹事 | 小柳 有美 (S 49卒) | 幹事 | 中村 道彦 (H 14卒) |
| 常任幹事 | 半田 敦士 (S 51卒) | 幹事 | 田元 有紀 (H 15卒) |
| 常任幹事 | 作間 功 (S 52卒) | 幹事 | 川壽 耕大 (H 16卒) |
| 常任幹事 | 堤 勝也 (S 53卒) | 幹事 | 青木 仁敬 (H 17卒) |
| 常任幹事 | 菊池 政道 (S 54卒) | 幹事 | 稲留 慶司 (H 18卒) |
| 常任幹事 | 佐伯 拓史 (S 56卒) | 幹事 | 進藤 靖子 (通58卒) |
| 常任幹事 | 田中 徹 (S 57卒) | 幹事 | 香野 信儀 (定34卒) |
| 常任幹事 | 弥吉 祐子 (S 58卒) | 幹事 | 大賀 啓史 (S 46卒) |
| 常任幹事 | 福泉 忠興 (S 59卒) | 幹事 | 田中 雅美 (S 50卒) |
| 常任幹事 | 中村 成克 (S 60卒) | 幹事 | |

各支部会長名簿

| | | | |
|------------|---------------|-----------|---------------|
| 東京修猷会会長 | 伊藤 哲朗 (S 42卒) | 大分修猷会会長 | 井上 正文 (S 44卒) |
| 中京修猷会会長 | 嶋尾 正 (S 43卒) | 熊本修猷会会長 | 井上 昌治 (S 51卒) |
| 近畿修猷会代表世話人 | 遠座 俊明 (S 52卒) | 宮崎修猷会会長 | 南嶋 洋一 (S 29卒) |
| 北九州修猷会会長 | 津田 純嗣 (S 44卒) | 鹿児島修猷会会長 | 福田 健夫 (S 28卒) |
| 佐賀修猷会会長 | 駒井 英基 (S 49卒) | 沖縄修猷会会長 | 國吉 妙子 (S 44卒) |
| 長崎修猷会会長 | 中牟田真一 (S 41卒) | 東北修猷会会長 | 工藤 砂織 (S 56卒) |
| | | 中国四国修猷会会長 | 河野 浩 (S 46卒) |

あとがき

2024年(令和6年)の修猷館同窓会誌「菁莪」の発行にあたり、たくさんの方たちにご協力を賜りましたことを、菁莪編集委員会一同大変感謝しております。特にあとがきまでお読みになる方は隔々まで読んでいただけた方だと思います。皆様、内容はいかがだったでしょうか？

私ごとではありますが、卒業して25年経った今になって当時の先生方や旧友たちと接することが多くなってきた気がします。それぞれの分野で活躍する友人たちの話を聞くと、自分のことのように嬉しく思い、誇らしく思います。お互いにいい刺激になって、これからは頑張りついでいこうと元気になります。

また、それぞれが家族を持ち、様々な家庭環境で子育てをする中でいろいろな悩みを抱えていることもわかりました。そんな悩みを共有する空間が減ったことも感じます。特にここ数年でコミュニティの在り方は大きく変わってしまったと感じます。子どもたちはいろいろな制約を受けて、昔のように友達と接することができなくなっているように感じています。今だからこそ、面と向かって接して、コミュニケーションをとることが重要だと思います。そして、そんな想いを形にするために、仲間たちと一緒に新たなコミュニティを作り、子どもの未来のために活動したいと思えたのも修猷館の仲間がいたからだと感じています。そんな話もいつかできたらなと思います。この場はこのくらいで……。

これからも「菁莪」という「館友と館友を繋ぐコミュニティ」を皆様楽しんでいただけるように、菁莪編集委員会一同精進して参ります。本年もまた、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村上 弘

修猷館同窓会総会

2024年度

24th ANNIVERSARY SHUYUKAN HIGH SCHOOL

Great Conjunction 修猷大会合！ ～今こそ集え一千人～

2024年度修猷館同窓会総会の幹事学年を務めます七猷会です。

2024年度と同窓会は、天明4年(1784年)の創立から240年という節目の年に開催予定であることから、七猷会としましても、長きにわたって受け継がれてきた我が母校の歴史を再確認し、未来へと繋ぐ意義深い総会にしたいと考えています。

占星学においては、時代が大きく変わる周期は240年とされており、この240年目の時代の節目のことを大会合又はグレートコンジャンクションと呼ぶそうです。そこで七猷会では、まさに創立240年目の節目に開催される2024年度と同窓会のテーマとして、「修猷大会合(グレートコンジャンクション)」を掲げています。

この時代の節目の、修猷大会合の同窓会に、多くの館友の皆さまが笑顔で集い、熱く語り合える場になるよう努めてまいりますので、皆さまの奮ってのご参加を心よりお待ちしております。



2024年度修猷館同窓会総会 実行委員長 古賀裕介(平成7年卒 七猷会)

同窓会
総会

2024年5月25日(土)18時～
会場：ホテルニューオータニ博多
チケット代：前売 8,000円 当日 9,000円
令和6年卒2,000円

OB ゴルフ大会

2024年6月2日(日)
福岡カンツリー倶楽部 和白コース

チケット・グッズは
Web ショップでも
お買い求めいただけます。





修猷館同窓会誌

菁 莪

発行者 修猷館同窓会

福岡市早良区西新三丁目十二番十四
電話(〇九二) 八二二―〇六六三
FAX(〇九二) 八二二―〇六七二

代表者 津田 純嗣

発行日 令和六年一月三十一日

編集者 菁莪編集委員会

森下七百枝・鞍垣 吉政
小柳 有美・堤 勝也
左伯 拓史・弥吉 祐子
石橋 顕・村上 弘
田元 有紀

印刷 祥文社印刷株式会社